ISSN 2432-728X

琉球大学国際教育センター紀要

（琉球大学留学生センター紀要 通算 17 号）

第４号

Bulletin of Global Education Center University of the Ryukyus

Vol.4

琉球大学グローバル教育支援機構
国際教育センター
2020 年

Global Education Institute,
Global Education Center
University of the Ryukyus
2020

目　次

研究ノート

文字列類似度と意味類似度から見た漢字読み問題選択肢のパターン分類

……………………………新城直樹 1

研究論文

高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは
―CEFR 2018 補遺版における mediation の分析を通して―

…………………………………………葦原恭子，塩谷由美子，島田めぐみ　11

Contents

Research Notes

ARASHIRO Naoki

Pattern Classification of Multiple-choice Questions in Kanji reading Quiz using Semantic Similarity and String metric

…………………… 1

Research Articles

ASHIHARA Kyoko, SHIOTANI Yumiko, SHIMADA Megumi

What kinds of Mediation Skills are needed to be a High-skilled Foreign Personnel? Through Analysis of CEFR Companion Volume with New descriptors

…………………… 11

研究ノート　琉球大学国際教育センター紀要
第 4 号, 2020

文字列類似度と意味類似度から見た漢字読み問題選択肢のパターン分類

新城　直樹

0. はじめに

本稿では，漢字の読みの選択肢問題を自動的に生成するシステム作りの基礎調査と分析を行う。選択肢は４選択肢とし，誤答選択肢には非単語は含めない。学習者像は日本語非母語話者を想定し，日本語能力試験の N1 と N2 の模擬試験問題集内の 80 問を基礎データとし，これらの問題群の意味類似度と文字列類似度（選択肢として出されるひらがな文字列）から選択肢の作り方のパターンの洗い出しを目指す。

1. 選択肢の文字列類似度

選択肢（ひらがな文字列）の文字列の類似度には，レーベンシュタイン距離(Levenshtein Distance)とジャロ・ウィンクラー距離(Jaro-Winkler Distance) の平均値を採用する。レーベンシュタイン距離は 2 つの文字列間での挿入，削除，置換の最小操作回数に基づく編集距離であり，ジャロ・ウィンクラー距離は，文字列間で共通する文字を順に抜き出したもの同士での置換回数に基づくジャロ距離（Jaro Distance）を使用して，さらに元の文字列同士で先頭から何文字共通しているかを反映させて算出する。これらは違うアルゴリズムであるが，80 問（4 選択肢）の 480 対の相関係数が 0.874 であり，規模数を大きくする前段階の調査，仮説形成という観点から，両者の平均を採用した。

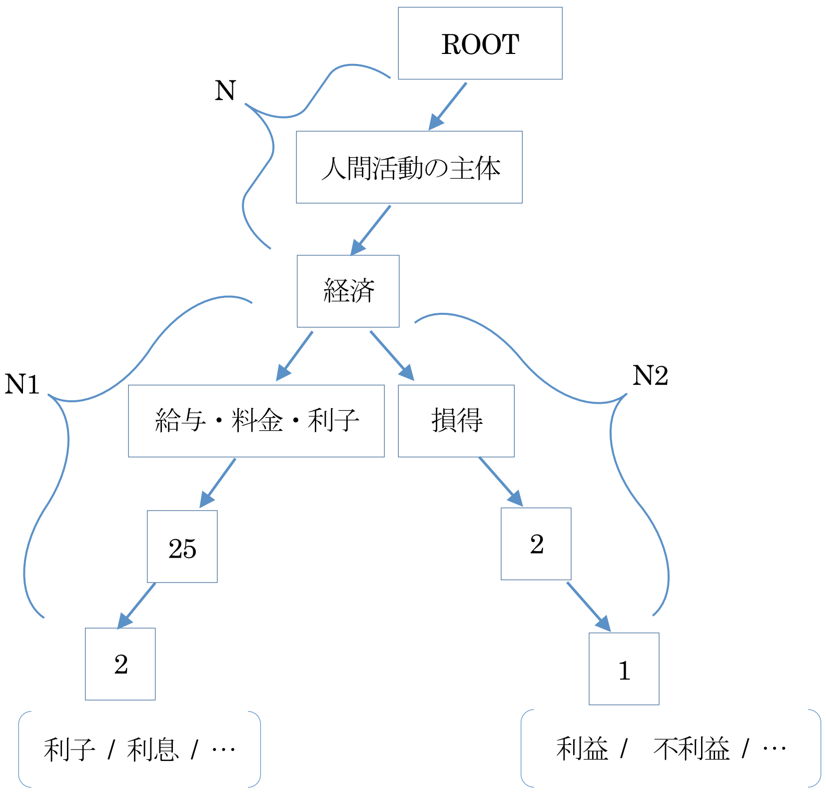
対象とする文字列には送り仮名は含めず，読み部分のみとした。

2. 単語の意味的類似性

選択肢の単語同士の意味類似度は，『分類語彙表』の 5 段階の分類枠で形成されるツリー構造内での距離とした。『分類語彙表』には「体の類」「用の類」「相の類」「その他の類」があるが，今回の基礎データでは選択肢内で体言や用言が混在しているケースは少数であったため，分類として含めなかった。

距離の計算には Wu-Palmer アルゴリズムで計算した。Wu-Palmer アルゴリズムは, 2 つの単語に共通し，かつ最も近い上位分類項目の ROOT からの深さ N と，その共通する分類項目からの各単語への深さ N1 と N2 を用いた計算である（図 1）。

図 1. 『分類語彙表』に基づいたオントロジーと Wu-Palmer アルゴリズム



Wu-Palmer アルゴリズムによる計算は以下の通りである。

$$SimWup = \frac{N * 2}{N1 + N2 + N * 2}$$

例として，「利子」と「利益」の類似度は，共通し最も近い上位分類項目の ROOT からの深さ N は 2，N1 と N2 は 3 となり，「利子 - 利益」の類似度は 0.4 となる。Wu-Palmer アルゴリズムで計算した値は 0～1 の範囲となり，0 が最も類似度が低く，1 が最も高い。

3. 分析

日本語能力試験の模擬試験問題集 8 冊から誤答選択肢に非単語がない 80 問を抽出し，4 選択肢の組み合わせ 6 対ごとに文字列類似度と意味類似度を計算した。意味類似度は，下記のように複数の分類がある場合はそれぞれの組み合わせごとに計算し，その平均を対ごとの類似度とし，最後に 4 選択肢の 6 つの組み合わせの平均を出し，これを問題の文字列類似度，意味類似度とした。

```
問題：省く
選択肢：はぶく / そむく / のぞく / きずく

はぶく - そむく,
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【背く】関係-類-相対-2-1 =0.2
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【背く】活動-交わり-約束-5-1 =0.0
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【背く】活動-待遇-命令・制約・服従-1-1 =0.0
Average:0.06666666666666667

はぶく - のぞく,
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【のぞく】関係-存在-出没-2-1 =0.4
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【除く】関係-存在-除去-1-1 =1.0
【省く】関係-存在-除去-1-1 --- 【のぞく】活動-心-見る-1-1 =0.0
Average:0.4666666666666666
. . . . . . . . . . .
```

また，同音異義語がある場合，同音異義語の組み合わせごとに類似度計算を行い，その平均を結果とした。下記の例では，正答選択肢「そうさく」は「捜索」と「創作」，誤答選択肢「そうさ」は「捜査」と「操作」の組み合わせごとの類似度を出し，その平均を「そうさく」と「そうさ」の意味類似度としている。

```
問題：捜索
選択肢：, そうさく / そうさ / たんさく / たんさ

そうさく - そうさ,
【捜索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-5 --- 【捜査】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-1 = 0.8
【捜索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-5 --- 【操作】活動-事業-扱い・操作・使用-1-1 = 0.2
【創作】活動-芸術-創作・著述-1-3 --- 【捜査】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-1 = 0.2
【創作】活動-芸術-創作・著述-1-3 --- 【操作】活動-事業-扱い・操作・使用-1-1 = 0.2
Average:0.35

そうさく - たんさく,
【捜索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-5 --- 【探索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-2-1 = 0.6
【捜索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-1-5 --- 【単作】活動-事業-農業・林業-3-5 = 0.2
【創作】活動-芸術-創作・著述-1-3 --- 【探索】活動-心-研究・試験・調査・検査など-2-1 = 0.2
【創作】活動-芸術-創作・著述-1-3 --- 【単作】活動-事業-農業・林業-3-5 = 0.2
Average:0.3
. . . . . . . . . . .
```

同音異義語を含めることによって類似度が下がる場合があり，問題作成者は意味が類似した単語を選んだのであろうから，「そうさく（= 捜索） / そうさ（=捜査） / たんさく（= 探索） / たんさ（= 探査）」と固定して類似度を計算するべきという考えもあるであろう。しかし，解答者の視点から考えると，「捜索」の意味も読みも知らないが「創作」の意味と読みは知っている場合，問題文の文脈から「そうさく」を選ばないという判断の根拠となる情報を持つと考えることができ，そのことは「捜索」が他の 3 つの誤答選択肢より「何かを探す」という意味から類似度が下がるという考えを本稿では取る。

前提条件：「捜索」の意味も読みも知らない

	「捜査」「探索」「探査」の いずれかの意味を知っている	「捜査」「探索」「探査」の 意味を知らない
「創作」の意味と 読みを知っている	「そうさく」を選ばない根拠と なる情報を持つ	「そうさく」を選ばない根拠と なる情報を持つ
「創作」の意味も 読みも知らない	「そうさく」を選ばない根拠と なる情報を持つ	「そうさく」を選ぶ/選ばないに 関する情報ゼロ

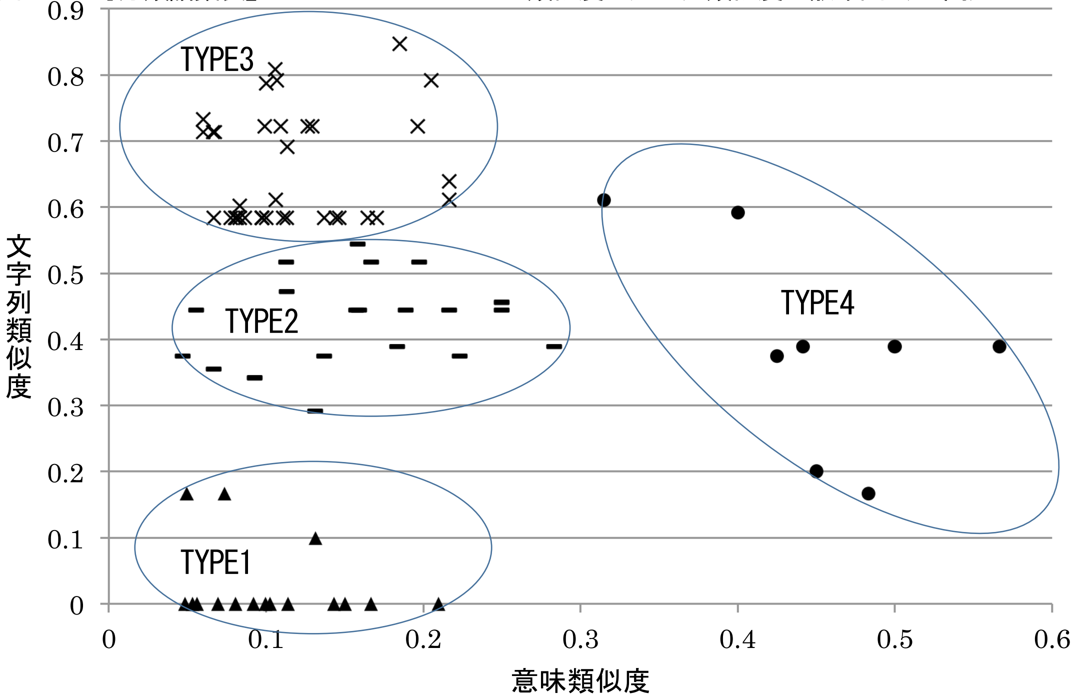
本稿では，問題作成者が類似度の高い単語を選んだかどうかではなく，解答者の知識状態によって問題の難度が上がることも類似度に関わるという立場を取るが，これについては認知心理学の分野において，白砂他（2017）で「Familiarity-matching に従えば，問題文で提示された対象が unfamiliar であった場合，人間は「同じく unfamiliar な選択肢が正答だろう」と推論する．よって，通常であればあまり有用な手がかりにならないと見なされがちな「unfamiliarity」という性質も，正答を導くうえで有用な手がかりとなりうる．(p.337)」という示唆もあり，意味類似度と familiarity/unfamiliarity の関係性，そして，解答者が選択肢問題を解く際のヒューリスティックを併せて見ていくことが重要であると考える。

3.1. 文字列類似度と意味類似度の散布図によるグルーピング

問題ごとの文字列類似度と意味類似度は，4 つの選択肢の 6 つの組み合わせごとに出した類似度の平均とした。

図 2 の散布図において，TYPE1～TYPE4 の 4 つのグルーピングを行った。TYPE1 は文字列類似度が低いもの，TYPE3 は文字列類似度が高いもの，TYPE4 は意味類似度が高く文字列類似度は TYPE1 と TYPE3 の中間であるもの，そして TYPE2 はそれらの中間に位置付けられる。

図 2.　『分類語彙表』に基づいた Wu-Palmer 類似度と文字列類似度の散布図（80 問）



	問題	正答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢
TYPE 1	布	ぬの	ふ	ふう	わた
	菓子	かし	はし	はこ	かす
	肩	かた	そで	けん	わき
	旧	きゅう	しん	こ	み
	机	つくえ	かばん	ひきだし	かがみ
	綿	めん	きぬ	きじ	かみ
	件	けん	ど	かい	こ
	裏	うら	おもて	わき	そば
	叫んだ	さけんだ	よんだ	とんだ	かんだ
	肌	はだ	ひふ	かわ	み
	腹	はら	おなか	むね	あたま
	汗	あせ	ひたい	うで	くび
	猫	ねこ	さる	いぬ	ぶた
	兆し	きざし	あかし	しるし	こころざし
	評価	ひょうか	へいか	ひか	かいか
	押した	おした	さした	うつした	かした
	程度	ていど	おんど	いど	かんど

TYPE1 は文字列類似度が低く，意味類似度は必ずしも低いものだけではない。このタイプは「漢字の読みを正確に覚えているかどうかより，4 つの選択肢にある単語をどれだけ多く知っているか」を問うも

のと考えられる。たとえば，意味類似度がかなり低く出ている「菓子：かし / はし / はこ / かす」の場合，問題文の文脈から「食べ物」であることが推測され，かつ，「(お) かし」が既知である場合，「菓子」という漢字の読みを知っているかどうかより，「(お) かし」という語を知っているかどうかで正答率が変わる可能性がある。また，意味類似度が比較的高く出ている「汗：あせ / ひたい / うで / くび」や「猫：ねこ / さる / いぬ / ぶた」では，文脈からの推測は難しくなるものの，その漢字の読みをあいまいながらでも覚えてさえいれば正答できる可能性がある。どちらとも必要条件は「その単語の漢字を知っているかにかかわらず，そもそもその語を知っていること」となる。

	問題	正答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢
TYPE 2	担う	になう	すくう	おう	うれう
	狭い	せまい	うるさい	きたない	すばらしい
	強盗	ごうとう	ごうどう	ごとう	きょうどう
	精神	せいしん	せいじん	ぜんしん	しんけい
	欺いて	あざむいて	そむいて	みちびいて	つらぬいて
	伴って	ともなって	したがって	ととのって	とどまって
	愚か	おろか	おおまか	たしか	あきらか
	祝った	いわった	いのった	うらなった	ねがった
	次第（に）	しだい	じてい	してい	じだい
	兆し	きざし	しるし	ためし	あかし
	省いた	はぶいた	そむいた	のぞいた	きずいた
	含む	ふくむ	かこむ	つつむ	たたむ
	望み	のぞみ	たのみ	なやみ	このみ
	漂って	ただよって	さまよって	めぐって	わたって
	著しく	いちじるしく	はげしく	はなはだしく	すばらしく
	袋	ふくろ	はこ	かご	かばん
	鍛えた	きたえた	さかえた	たたえた	ととのえた
	抱えて	かかえて	そなえて	たずさえて	くわえて
	奮闘	ふんとう	しゅうとう	しゅうせん	ふんせん
	福祉	ふくし	ふうしゅう	ふうし	ふくしゅう

TYPE2 は TYPE1 と TYPE3 の中間に位置するタイプである。中間にあることもあってか特徴付けが難しいが，意味類似度が低いものだけではないことから，バランスよくさまざまなバリエーションがある問題群ともいえる。

	問題	正答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢
TYPE 3	携わって	たずさわって	かかわって	こだわって	くわわって
	滑らか	なめらか	なだらか	ほがらか	やすらか
	済んで	すんで	やんで	とんで	かんで
	施行	しこう	せっこう	せいこう	しっこう
	悔しい	くやしい	いやしい	むなしい	さびしい
	伴う	ともなう	そこなう	うらなう	つぐなう
	観測	かんさつ	かんそう	かんそく	かんしゃ
	効果	こうか	ごうか	きか	きが
	携わる	たずさわる	くわわる	かかわる	そなわる
	設け	もうけ	しつけ	そむけ	あずけ
	似ている	にている	している	みている	えている
	異なった	ことなった	かさなった	つらなった	たかなった
	焦って	あせって	いらだって	はやまって	はかどって
	掲げて	かかげて	あげて	もたげて	ささげて
	敗れて	やぶれて	たおれて	みだれて	つぶれて
	介護	かいご	かんご	かいじょ	かいほう
	頂上	ちょうじょう	さんちょう	ちじょう	ちょうじょ
	与えられた	あたえられた	くわえられた	こえられた	ささえられた
	概略	がいりゃく	きりゃく	きかく	がいかく
	威力	いりき	いりょく	じりき	じりょく
	軌道	きどう	くどう	くうどう	きゅうどう
	考慮	こうりょ	こうろ	こうろう	こうりょう
	要請	ようせい	ようしょう	ようきゅう	ようぼう
	均衡	きんこう	きんしょう	きっしょう	きっこう
	触れない	ふれない	かれない	されない	とれない
	埋められて	うめられて	とめられて	せめられて	なめられて
	鋭い	するどい	にぶい	えらい	つらい
	滞って	とどこおって	いきづまって	たまって	とまって
	解ける	とける	よける	かける	さける
	簡単	かんたん	かんだん	かたん	かだん
	世代	せだい	せいだい	せいたい	せたい
	貧しかった	まずしかった	かなしかった	さびしかった	きびしかった
	否め	いなめ	とがめ	おさめ	いさめ
	感染	かんせん	かんでん	かんぜん	かんねん
	研修	けんしゅう	けんきゅう	げんしゅう	げんきゅう

TYPE3 は文字列類似度が高く，意味類似度も TYPE1 と同じく必ずしも低いものだけではない。TYPE1 では送り仮名がないものが多いが，1.で述べたように，対象とする文字列には送り仮名は含めず，読み部

分のみとしているため，送り仮名部分の有無やその長さと文字列類似度との関連はない。

文字列類似度が高いことから，正確な読みを覚えているかどうかを問うタイプといえる。「世代：せだい / せいだい / せいたい / せたい」や「効果：こうか / ごうか / きか / きが」では濁音の有無，「施行：しこう / せっこう / せいこう / しっこう」，「均衡：きんこう / きんしょう / きっしょう / きっこう」では促音，「考慮：こうりょ / こうろ / こうろう / こうりょう」では長音や拗音に関する正確さを問うものとなっている。また，「介護：かいご / かんご / かいじょ / かいほう」や「威力：いりき / いりょく / じりき / じりょく」のように 2 字のうち 1 字を知っていれば実質 2 択となり，漢字の読みを知っていることが有利につながることから，「単語としての漢字の読みを知っているかどうかより，漢字単独の読みをどれだけ知っているかどうか」に焦点を当てたタイプともいえる。

	問題	正答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢	誤答選択肢
TYPE 4	幾多	いくた	たた	きた	あまた
	逃れた	のがれた	はなれた	それた	まぬがれた
	遮る	さえぎる	さまたげる	せばめる	へだてる
	捜索	たんさく	そうさ	そうさく	たんさ
	恨む	うらむ	うらやむ	ねたむ	あやしむ
	納める	おさめる	さだめる	きめる	もとめる
	利益	りえき	りし	りそく	りじゅん
	惜しむ	おしむ	あやしむ	かなしむ	なつかしむ

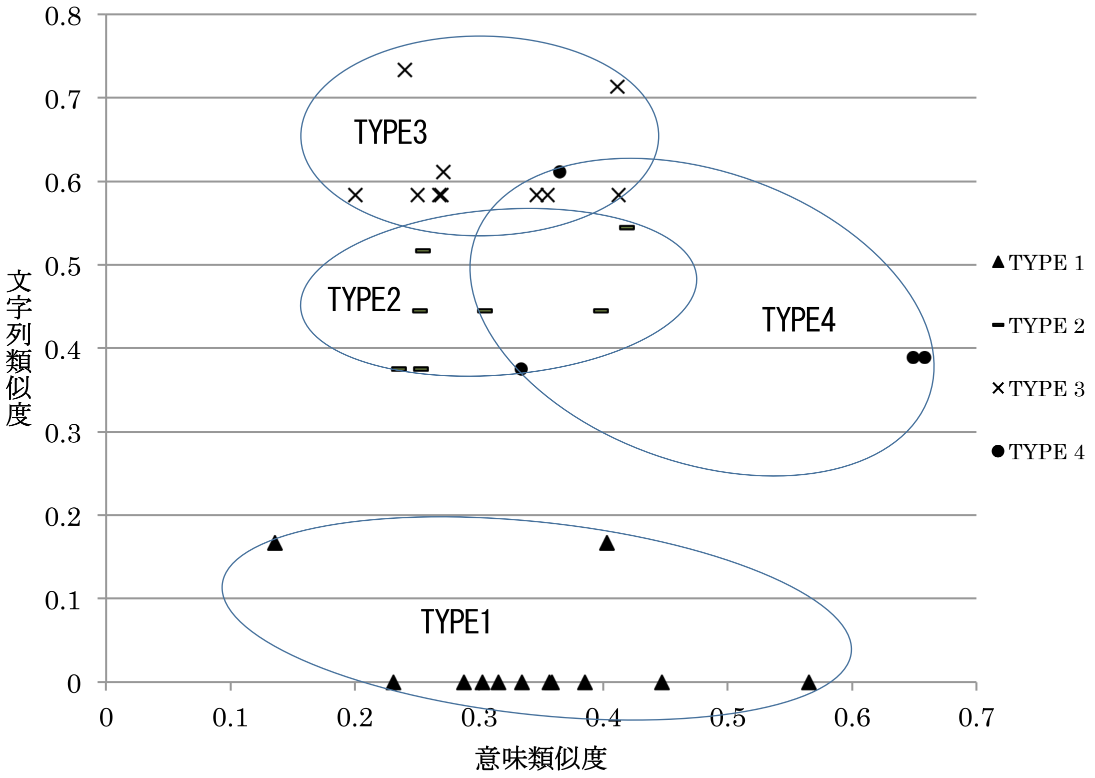
TYPE4 は，意味類似度が高く，文字列類似度は高いものから低いものまである。意味類似度が高いことから，問題文の文脈からの単純な推測だけでは難しく，類義語間の正確な違いの理解が求められるタイプといえる。そして，類義語間の正確な違いが分からなかった場合，文字列類似度が高いものもあるため，その読みを正確に知っているかどうか問われるともいえる。

3.2. 日本語 Wordnet の Wu-Palmer 類似度との関連

類似度を測る手法としては日本語 Wordnet を利用しての研究，調査が自然言語処理の分野を中心にある。ここでは，3.1 で行った『分類語彙表』に基づいた意味類似度を日本語 Wordnet の Wu-Palmer 類似度に変えた場合に散布図上でどのような分布となるか確認した。

本稿の基礎データ内の選択肢にある 4 語すべてが日本語 Wordnet に登録されているものは 80 問中 33 問であった。図 3 はこの 33 問の散布図である。データ数は少ないが，全体的に意味類似度のばらつきが大きくなっていることから，『分類語彙表』と日本語 Wordnet の相関は低いことが推測される。

図 3. 日本語 Wordnet の Wu-Palmer 類似度と文字列類似度の散布図（33 問）



4.　まとめ

漢字の読み問題（4 選択肢）の誤答選択肢を自動的に生成するシステム作成のために，第一段階としてどのような選択肢パターンがあるかを意味類似度と文字列類似度の視点から見てきたが，今回利用した 80 問からは，4 つのタイプに分けられるであろうことが確認された。

また，『分類語彙表』に基づいた Wu-Palmer アルゴリズムの計算結果と日本語 Wordnet での Wu-Palmer 類似度の相関はない，または低いであろうことが推測された。実際，今回の調査の前に，800 単語（319,600 対）で両者の類似度で相関係数を見たところ，相関がない，またはかなり低い相関という結果であった。しかしながら，選択肢の自動生成に日本語 Wordnet を利用できる可能性については検討すべきであるし，日本語 Wordnet と『分類語彙表』の連携についても今後も調査，分析を行っていきたい。

【模擬試験問題集】

国際交流基金（2012）『日本語能力試験 公式問題集 N1』凡人社

国際交流基金（2012）『日本語能力試験 公式問題集 N2』凡人社

千駄ヶ谷日本語教育研究所（2013）『日本語能力試験N1 模擬テスト〈3〉』スリーエーネットワーク

千駄ヶ谷日本語教育研究所（2011）『日本語能力試験N1 模擬テスト〈2〉』スリーe-ネットワーク

新JLPT研究会（2010）『日本語能力試験 模試と対策 N1』アスク出版

新JLPT研究会（2010）『日本語能力試験 模試と対策 N2』アスク出版

ユーキャン日本語能力試験研究会（2010）『U-CANの日本語能力試験N1予想問題集』U-CAN

ユーキャン日本語能力試験研究会（2010）『U-CANの日本語能力試験N予想問題集』U-CAN

参考文献

1）伊藤博美・佐藤 洋之・倉元直樹（2003）「日本語基礎能力テストの特性（1）国語教育から見た語彙理解力測定項目の内容評価」『教育情報学研究』（1）, pp.15-23

2）白砂大・松香敏彦・本田秀仁・植田一博　（2017）「なじみ深さのマッチング：認知プロセスと生態学的合理性の実験的検討」『認知科学』 24（3）, pp.328-343

3）陳 豊・亀山渉（2014）「日本語 WordNet を利用した単語間の類似度計算による画像検索システムに関する研究」,『研究報告オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）』,2014（7）, pp.1-5

4）濱田美和（2018）「漢字教材開発のための基礎資料 : 中・上級日本語学習者の漢字読みテストにおける誤答」『富山大学国際機構紀』1, pp.19-33

（琉球大学 国際教育センター）

研究論文

琉球大学国際教育センター紀要
第 4 号, 2020

高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは
― CEFR 2018 補遺版における mediation の分析を通して ―

葦原恭子，塩谷由美子，島田めぐみ

要　旨

近年，日本では企業における高度人材としての外国人社員の需要が高まっている。日本社会の労働力人口減少とビジネス環境のグローバル化の進展が背景にある。日本の大学や大学院を卒業・修了した高度外国人材は，少子高齢化が進む日本において大きな戦力になり得るとされている。本研究チームはビジネス日本語教育および高度外国人材の育成・評価に資するビジネス日本語フレームワーク構築を目指している。フレームワークの構築では質的調査と量的調査を実施するため，質的調査の一環として国内外で活躍している高度外国人材にインタビュー調査を実施した。その結果，高度外国人材は，言語能力や異文化コミュニケーション能力を活かし，日本企業と取引先の仲介役となって活躍していることが明らかとなった。折しも，本研究が先行研究として参照している CEFR の補遺版が発表され，「mediation（仲介）」スキルについて新たな定義と仲介活動・仲介ストラテジーの Can-do statements（以下，Can-do とする）が加えられた。このことは，複言語・複文化社会における「仲介」の重要性を示していると言えよう。そこで，本研究では，高度外国人材に求められる「仲介」スキルを明らかにし，ビジネス日本語フレームワークに追加することとした。

【キーワード】ビジネス日本語フレームワーク，異文化コミュニケーション能力，
ビジネス日本語能力，Can-do statements

1. 研究の背景

1.1 高度外国人材としての留学生をめぐる状況

日本における労働力人口減少とビジネス環境のグローバル化の進展により 2018 年度に高度外国人材として日本企業等に就職した元留学生数の在留許可申請者は 30,924 人と過去最高となり，このうち 25,942 人が許可されており，前年より 3,523 人（15.7%）増加している（法務省 2019)。その背景にあるのは，日本社会における労働力人口の減少とビジネス環境のグローバル化の進展である。日本の大学や大学院を卒業・修了した高度外国人材は，少子高齢化が進む日本では大きな戦力になり得るとされているのである。

横須賀 (2007) は, 全国の企業 264 社と外国人留学生 400 名を対象に質問紙による調査を実施した。その結果，企業は，求める人材に対し，「日本語力」,「日本人との協調性」を重視しており，企業が期待する留学生の日本語力は,「ビジネスレベルで日本人の社員や顧客と円滑にやりとりができる言語運用能力と，社会，文化に関する知識を含めた総合的なコミュニケーション能力」であるとしている。このような状況下で，大学や日本語学校など日本語教育の現場では，ビジネス日本語教育のニーズが高まるという状況が続いている。しかし，一方で，堀井（2013）は，ビジネス日本語教育の現状

と課題を分析し，「ビジネス日本語の学習領域の確定はまだできていない」と指摘している。

本研究チームは，コミュニケーション能力の中で，特にビジネス日本語能力および異文化コミュニケーション能力に焦点をあて，ビジネス日本語教育の現場で到達目標を立てる際，また，高度外国人材を雇用した企業が人材を評価・育成する際に資するビジネス日本語の枠組みを確立するため，ビジネス日本語フレームワーク（以下，BJFW とする）を構築することとした。

1.2 高度人材に対するインタビュー調査

BJFW 構築のプロセスには質的調査および量的調査がある。本研究チームは，質的調査の一環として，異文化間でのビジネス場面において仲介活動に携わる高度外国人材に必要とされる日本語能力および異文化コミュニケーション能力の一端を明らかにするため，タイおよび韓国で調査を実施した。

1.2.1 タイにおける調査

表１　タイにおける調査協力者の内訳

性別	男性 (2)　女性　(6)
日本語学習歴	5 年 (2) 6 年 (1) 7 年 (1) 8 年 (2) 9 年 (1) 12 年 (1)
日本留学歴	1 年 (1)　1 年半 (1) 2 年　(2) 2 年半 (1) 4 年 (3)
日本語能力試験	N 1 取得 (6)　 N2 取得 (2)
最終学歴	タイの大学卒 (4) 日本の大学院卒 (4)
業種	メーカー (3) 観光メディア・花卉販売・NPO イベント関係・地方公共団体公社 (各 1)

葦原・奥山・塩谷・島田 (2018) は，2017 年 8 月上旬にタイ・バンコクにおいてインタビュー調査を実施した。調査対象者（表 1）は全員タイ語母語話者で，タイ国内で通訳としての業務経験がある。調査は個別に半構造化インタビューとして実施した。一人あたりのインタビュー時間は約 2 時間～3 時間であった。主な質問事項は，1）経歴，2）従事している仲介活動，3）仲介以外の業務，4）通訳しにくい表現，5）異文化摩擦事例とその対処法，である。

調査結果の分析方法は次のようである。

1）インタビューは許可を得て録音し，文字化する。

2）文字化した発話を分析し，カテゴリー化する。

3）カテゴリーごとにコーディングする。

4）カテゴリー間の関係性を確認し，図式化及び叙述化する。

タイにおけるインタビューで得られた発話内容を分析した結果，次のようなことが明らかとなった。

1）タイ人高度人材は，タイ人と日本人の仕事への取り組み方の傾向の違いを認識していた。それらは，「仕事への姿勢」「仕事へのこだわり」「時間の管理」「コミュニケーションスタイル」「会議のスタイル」に分類された。

2）タイ人高度人材は，1) のような違いを認識した上で様々な方略を用いて仲介活動を行なっていた。その方略は「情報を確認する」「適切な伝達方法を選ぶ」「揉め事に対処する」「情報を補足する」に分類された。

3）タイ人高度人材は，仲介者としての心構えを持った上で，異文化コミュニケーターとして業務を遂行していたが，一方で様々なジレンマを抱えてもいた。

以上のことから，タイ人高度人材は，単に言語を訳すだけでなく，日本人とタイ人を繋ぐ異文化コミュニケーターとして仲介活動を行なっていることが明らかとなった。

1.2.2 韓国における調査

葦原・塩谷・奥山（2019）は，2018 年 3 月，韓国のソウルにおいて個別の半構造化インタビュー形式で調査を実施した。調査対象者は，韓国語母語話者 5 名で，韓国において高学歴な就職希望者の就職先として代表的な業種であるとされているメーカーに勤務している高度人材であった（表 2）。5 名が所属するメーカーはそれぞれ別の会社であり，扱っている製品の種類も異なっていた。全員が 1 年〜2 年，交換留学やワーキングホリデーなどを通して日本に留学した経験がある元留学生であった。

韓国における調査の目的は，1）韓国における就職事情の現状，2）韓国人仲介人材の役割，3）韓国人と日本人の仕事への取り組み方，の 3 点について明らかにすることによって，日本に留学経験のある韓国人高度人材をめぐる現状の一端を浮き彫りにすることである。一人あたりのインタビュー時間は約 1 時間であった。主な質問事項は，1）経歴，2) 業務内容，3) 韓国人と日本人の仕事に対する取り組み方，4）トラブル事例と解決方法，5）仲介人材として必要だと思う能力，6）韓国国内の就職事情であった。

表 2　韓国調査における対象者一覧

	高度人材 A	高度人材 B	高度人材 C	高度人材 D	高度人材 E
性別・年齢	30 代前半女性	30 代後半男性	20 代後半女性	30 代後半男性	20 代後半女性
日本在住歴	1 年 (交換留学)	1 年 (交換留学)	1 年 (交換留学)	2 年 (交換留学・ ワーホリ)	1 年半 (交換留学・ インターンシップ)
日本語学習歴	5 年	2 年	12 年	5 年	8 年
日本語能力試験	N1	N1	N1	N1	N1
最終学歴	韓国の国立大学卒業	韓国の公立大学卒業	韓国の国立大学卒業	韓国の私立大学卒業	韓国の国立大学卒業
所属 メーカー	自動車部品 (日系・大手)	化学 (韓国系・大手)	ネットワーク機器 (韓国系・大手)	産業用部品 (日系・大手)	繊維 (韓国系・大手)
就業年数	8 年	5 年	1 年半	3 年+2 年（前職)	4 年
肩書き	社長秘書	課長	秘書・通訳・翻訳	主任	主任
業務内容	日本本社とやりとり 本社への報告 社長メール翻訳	中国から原料を輸入 日本顧客に販売 日本取引先開拓	秘書業務が 90% 業務評価の翻訳 工場監査の通訳	韓国国内営業 日本語で報告書作成 日本駐在の可能性	日系アパレル会社と やりとり・商品企画 通訳・貿易業務

韓国におけるインタビュー調査で得られた発話内容を分析した結果, 次のようなことが明らかとなった。

1）韓国人高度人材は，韓国人と日本人の仕事への取り組み方の傾向の違いを認識していた。それらは,「仕事の進め方」「時間の管理」「問題点への対処法」「人間関係」「謝罪に対する考え方」「定年に対する考え方」に分類された。

2）韓国人高度人材は，1) のような違いを認識した上で様々な方略を用いて仲介活動を行なっていた。 仲介人材に求められると考えている能力については「調整力」「仕事の能力」「空気を読む能力」が指摘された。

3）韓国人高度人材は，仲介者としての心構えを持った上で，日本人と韓国人の企業の中核をなす人材として業務を遂行していた。

本研究チームは，異文化間でのビジネス場面において，仲介活動に携わる高度外国人材に必要とされる日本語能力および異文化コミュニケーション能力の一端を明らかにするため，タイ及び韓国で調査を実施した。これらの調査の結果，タイ人高度人材は，異文化摩擦場面において異文化コミュニケ

ーターとしての役割を果たしていた。また，韓国人高度人材は，仲介者としての心構えを持った上で，様々な方略を用いて仲介活動を行い，業務の中核をなす人材として業務を遂行していた。以上の調査から，実際のビジネス現場においても，高度外国人材には仲介スキルが求められていることが明らかとなった。

1.3 CEFR2018 補遺版の刊行

CEFR （2001 年版）（以下，CEFR 2001 とする）が刊行されて以来，欧州評議会に寄せられた多くの要望に応えるべく，CEFR 2018 補遺版（以下，CEFR 2018 とする）が刊行された。CEFR 2018 では，CEFR 2001 が取り上げていなかった Can-do を拡充し，A1 レベルの精緻化、プレ A1 の設定、C レベルに関する Can-do リスト，ネット上のインタラクション，仲介能力や複言語・複文化能力，文学作品などの評価を伝える Can-do を収録している。

西山（2018）は，CEFR 2018 における仲介に関する Can-do 作成は補遺版における重要な新機軸であると指摘している。また，真嶋（2019 : 7）は，CEFR 2018 について，「新しく加えられた事項の中で，最も大きい改革・進歩は『仲介 Mediation』の能力記述であろう」としている。

以上のような背景からもグローバルなビジネス場面での仲介の重要性が明らかとなったため，BJFW に集約すべく仲介スキルを能力記述文バンクに登録することとした。

2. 研究の方法

本研究における仲介スキルの集約のプロセスは次の通りである。

1）CEFR2018 の仲介に関する記述を抜粋・翻訳する。

2）仲介の Can-do を抽出し・翻訳する。

3）直観的手法により設定した基準により内容を精査し，BJFW の記述文として書き換える。

4）能力記述文バンクに登録する。

3. CEFR2018 補遺版における仲介

CEFR 2001 では，仲介について「私達の社会において通常の言語機能の一つとして重要な位置を占めている」（p.15）としており，口頭あるいは書記テクストの処理に必要な翻訳や通訳，要約，言い換えなど対話者間の仲介の役割と規定していたが，Can-do は提示されていなかった。そこで，CEFR 2018 においては，意味の構築や伝達といった認知機能ならびに関係性の仲介機能および方略を開発し，5 技能に匹敵する言語コミュニケーションの正当な地位が仲介機能に与えられた。そして，仲介の取り扱いについては「言語横断する（情報を他の言語で訳す）ことにとどまらない」としており，「人々がお互いに直接コミュニケーションをすることができない時にコミュニケーションを可能にする」としている。さらに，仲介は「話された内容でも，書かれた内容でも，第一言語でも第二言語でも，受容も産出もする」としている（p.33）。仲介の Can-do については，「仲介活動」として「テクストの仲介（141 項目）」「概念の仲介（58 項目）」「コミュニケーションの仲介（41 項目）」

の合計 240 目が提示されている。「仲介ストラテジー」としては，「新しい概念を説明する（23 項目）」および「テクストを簡略化する（15 項目）」の 38 項目が提示されている。

西山（2018 : 78）は，CEFR 2018 が仲介能力に注目した理由として「仲介能力は言語に関わるだけではなく，複数の文化にも関わるもので，異なる言語や文化の衝突などを避ける仲介者にも求められる能力である」ためであると指摘している。

奥村（2019 : 9）は，CEFR 2018 の仲介活動の中で用いられる言語の種類について，次のように分類している。

① 2 つの異なる言語（two different languages）〔例.日本語と英語〕
② 同じ言葉の 2 つの変種（two varieties of the same language）〔例.青森弁と鹿児島弁〕
③ 同じ変種の 2 つの位相（two registers of the same variety）〔例.話し言葉と書き言葉〕
④ ①～③の組み合わせ

CEFR 2001 においては，仲介は，言語的，文化的，意味的または技術的な障壁のために当事者が理解することができないテクストの内容を他者に伝える（翻訳や通訳など）という活動が主であった。しかし，CEFR 2018 では，自分自身のための仲介（例えば講義のノート取りなど）や文学作品を読んで批評をすることも仲介活動として捉え，Can-do も提示している。

以上のように, CEFR 2018 が仲介としている活動およびストラテジーは広範囲に渡っていることから，本研究においては，仲介の Can-do を分析し，高度外国人材に求められる仲介スキルとして再構築し，BJFW に追加することとした。

4. 例示的能力記述文の書き換え

4.1 書き換えのプロセス

CEFR 2018 から抽出した仲介の Can-do は 278 項目であった。本研究では，まずそれらを日本語に翻訳した。その後，Can-do を精査し，分析し，BJFW に追加するために再構築を試みた。

再構築の作業をする上では，次のようなプロセスが発生した。

1）翻訳した Can-do 記述をビジネス場面に置き換える。
2）ビジネス場面に置き換えることができないものはリストから除外する。
3）二言語間で行われる仲介については，起点言語が日本語で目標言語が日本語以外の言語の場合，およびその逆の場合の 2 パターンの Can-do を作成する.
4) A1～C2 等の尺度のレベル差をつけるために用いられるマイナス条件（「翻訳がぎこちないが」,「発話に間違いがあるが」，など）については削除し，タスクの難易度によってレベル差をつける。

以上のようなプロセスを経て，CEFR2018 の仲介活動に関する Can-do 278 項目は, BJFW へ集約する Can-do 案の候補として 326 項目として書き換えられ, BJFW の能力記述文項目バンクに登録された。

4.2 仲介活動

4.2.1 仲介活動 Can-do の書き換えプロセス

仲介活動 Can-do の「テクストの仲介」は，「創造的なテクストを分析し，批評する」は創造的なテクスト（文学など）と個人の関わりの仲介であることから今回の書き換え対象からは除外し，その他の項目はビジネス場面を想定して書き換えた。その際に言語 A と言語 B という二言語間の仲介タスクは「日本語→日本語以外の言語（仲介者の母語を想定）」「日本語以外の言語→日本語」という双方向のやりとりとして記述を追加したため，BJFW としての項目数は倍増した。

「概念の仲介」については，Pre-A～A2 レベルの難易度の低いタスクは除外し，その他の項目はビジネス場面を想定して書き換えた。CEFR2018 の仲介 Can-do おいてはレベル差の設定のために次のような 2 パターンの方法がある。

1）マイナス条件（不正確である，語彙が足りない，など）を付加する。

2）タスクそのものの難易度を変える。

BJFW では，1）の方法はとらず，すべて 2）のパターンで書き換えた。「コミュニケーションの仲介」は，仲介のタスクというより仲介者としての行動，心構えの記述であったため，ビジネス場面を想定して書き換えた。以上のような方針の下に書き換えを行った「仲介活動」の Can-do の各項目数は表 3 の通りである。

表 3　仲介活動の Can-do 項目数

仲介活動　（221 項目）			
テクストの仲介（141 項目）			
仲介スキル	CEFR	BJFW	除外
特定の情報を口頭で伝える	13	26	0
特定の情報を書いて伝える	12	24	0
データを口頭で説明する	6	6	3
データを書いて説明する	5	10	0
テクストを口頭で処理する	28	44	10
テクストを書いて処理する	17	34	0
書かれたテクストを口頭で訳す	9	18	0
書かれたテクストを書いて訳す	8	6	5
メモをとる	12	24	0
創造的なテクストに個人的に反応する	19	0	19
創造的なテクストを分析し批評する	12	0	12
概念の仲介（58 項目）			
仲介スキル	CEFR	BJFW	除外
仲間との協働を促進する	14	11	3
意味構築のために協働する	18	15	3
グループワーク主導する（インターアクションを処理する）	13	13	0
グループワークを主導する（概念的な発話を促す）	13	12	1
コミュニケーションの仲介（41 項目）			
仲介スキル	CEFR	BJFW	除外
複文化の場を円滑にする	16	16	0
打ち解けた場面で仲介者として行動する	10	5	5
微妙な場面や意見の相違のあるコミュニケーションを円滑にする	15	13	2

4.2.2 仲介活動 Can-do の書き換え例

4.2.2.1 テクストの仲介

4.2.2.1.1 特定の情報を口頭で伝える

仲介活動には「テクストの仲介」があり，その中の「特定の情報を口頭で伝える」の Can-do の書き換え例は，表 4 の通りである。なお，本稿では，紙幅の都合上，B2 レベル以上の Can-do 記述のみ記載し，B1 以下の記述は割愛するものとする。

表 4　「特定の情報を口頭で伝える」の書き換え例

特定の情報を口頭で伝える			
CEFR レベル	CEFR 2018	BJFW	
	言語 A→言語 B	日本語→日本語以外の言語	日本語以外の言語→日本語
C2	Cando 記述なし,C1 参照	Cando 記述なし,C1 参照	Cando 記述なし,C1 参照
C1	言語 A で書かれた長く複雑なテクストのあるセクションの特定の情報に関連することを言語 B で説明することができる。	日本語で書かれた長く複雑なビジネス文書から業務に必要な情報を抽出し，日本語以外の言語で訳して口頭で説明することができる。	日本語以外の言語で書かれた長く複雑なビジネス文書から業務に必要な情報を抽出し，日本語で訳して口頭で説明することができる。
B2	特定の目的に関連して言語 A で書かれた本の記事について会議で言語 A でされたプレゼンテーションを言語 B で置き換えることができる。	日本語で書かれた情報をもとに会議の場で日本語で発表されたプレゼンテーションの内容を日本語以外の言語で訳して口頭で伝えることができる。	日本語以外の言語で書かれた情報をもとに会議の場で日本語で発表されたプレゼンテーションの内容を日本語で訳して口頭で伝えることができる。
	一般的なトピックや自分の興味のある分野に関連したトピックについて言語 A で書かれた正式な文書やレポートの主要なポイントを言語 B で置き換えることができる。	自分の仕事や業務と関係があるトピックについて日本語で書かれたビジネス文書の主要なポイントを日本語以外の言語で訳して口頭で伝えることができる。	自分の仕事や業務と関係があるトピックについて日本語以外の言語で書かれたビジネス文書の主要なポイントを日本語で訳して口頭で伝えることができる。

4.2.2.1.2 メモを取る

「テクストの仲介」の「メモをとる」Can-do の書き換え例は，表 5 の通りである。CEFR 2018 では A1 レベル以下の Can-do は提示されていなかった。また，「メモをとる」は，言語使用者が打ち合わせ，セミナー，講義などから情報を得て，自分自身と情報源の仲介者としてメモをという仲介活動となっていたため，とったメモを議事録として業務に活かすという設定に変更した。

表５ 「メモをとる」の書き換え例

メモをとる			
CEFR レベル	CEFR 2018	BJFW	
		日本語で	日本語以外の言語で
C2	打ち合わせやセミナーに参加している間にトピックが複雑で馴染みがないことでも欠席者のために正確なメモ（または議事録）を作成することができる。	会議やセミナーで自分の専門分野以外のトピックでも正確な議事録を日本語で作成することができる。	会議やセミナーで自分の専門分野以外のトピックでも正確な議事録を日本語以外の言語で作成することができる。
	発話されたことの含みやほのめかしに気づき，話し手が実際に話した通りの言葉でメモすることができる。	会議や商談で曖昧な発言やほのめかしに気づき，発話通りに日本語でメモを取ることができる。	会議や商談で曖昧な発言やほのめかしに気づき，発話通りに日本語以外の言語でメモを取ることができる。
	抽象的な概念や異なる考え方同士の関係性を掴むために効果的に言い換えたり，省略したりしながら，取捨選択してメモを作ることができる。	会議や商談で抽象的な内容や異なる意見を理解し，情報を取捨選択して日本語でメモを作ることができる。	会議や商談で抽象的な内容や異なる意見を理解し，情報を取捨選択して日本語以外の言語でメモを作ることができる。
C1	自分が興味のある分野のトピックで情報を非常に正確かつ元の情報に忠実に記録し他の人のために使うことが可能な詳しいメモを作ることができる。	会議や商談で自分の業務や専門分野に関連したトピックについて聞き取った情報を正確に示した詳しいメモを日本語で作ることができる。	会議や商談で自分の業務や専門分野に関連したトピックについて聞き取った情報を正確に示した詳しいメモを日本語以外の言語で作ることができる。
	講義やセミナーの途中で馴染みがないトピックでもメモをすべきことを取捨選択できる。	会議やセミナーで自分の専門分野以外のトピックでも情報を取捨選択して，日本語でメモを作ることができる。	会議やセミナーで自分の専門分野以外のトピックでも情報を取捨選択して，日本語以外の言語でメモを作ることができる。
	複数の話された情報源（例：講義・ポッドキャスト・正式な討論・ディベート・インタビューなど）が通常の速さで馴染みのある訛りで話される標準的な発話であれば，関連した詳細な情報や議論を選び出すことができる。	会議やセミナーやインタビューなど複数の情報源から自分の業務や専門分野に関する必要な情報を聞き取って，日本語でメモすることができる。	会議やセミナーやインタビューなど複数の情報源から自分の業務や専門分野に関する必要な情報を聞き取って，日本語以外の言語でメモすることができる。
B2	馴染みのあるトピックの構造がはっきりした講義を理解し，単語に集中しすぎるあまり情報を聞きもらす傾向があるにしても自分自身が重要だと思った点をメモすることができる。	会議やセミナーなどで自分が重要だと思った点を日本語でメモすることができる。	会議やセミナーなどで自分が重要だと思った点を日本語以外の言語でメモすることができる。
	自分自身の興味がある分野で提示されるほとんどのことについての打ち合わせやセミナーの正確なメモを作ることができる。	会議やセミナーなどで提示されたほとんどの情報を日本語でメモすることができる。	会議やセミナーなどで提示されたほとんどの情報を日本語以外の言語でメモすることができる。

4.2.2.1.3 創造的なテクストを分析・批評する

CEFR 2018 では，表６の通り，新たに「創造的なテクスト」と言語使用者との間の仲介が追加された。これは，文学作品などを鑑賞している言語使用者が作品を批評する，分析する，反応するなどすることを仲介としてとらえているものである。今回の再構築作業においては，BJFW の書き換え対象からは除外した。今後，出版業務やゲームなどをクリエイトする業務に従事している高度外国人材に対するインタビュー調査を実施し，BJFW に追加する必要があると判断した場合は，書き換え対象とする可能性がある。

表 6　「創造的なテクストを分析・批評する」の書き換え例

創造的なテクストを分析・批評する		
CEFR 2018		BJFW
C2	小説・詩・演劇など様々な時代・ジャンルの作品についてはっきりわかる意味の違いはもとより微妙な意味とスタイルの違いも含めて批評的評価をすることができる。	今回は書き換え対象から除外
	意味や暗示を解いて解説してみせて，比喩・特殊な文法・曖昧表現など言葉のニュアンス・修辞的効果・文体の微妙な違いを認識することができる。	
	作品中の特定の目的のために使われた構造・言語・修辞を評価し，適切さや効果について裏付けのある議論をすることができる。	
	作品中で言葉の使い方に関する決まりごとを意図的に破っていることを批評して評価することができる。	
C1	異なる時代・ジャンルの文学作品を含め幅広い様々なテクストを批評的に評価することができる。 作品がそのジャンルでの決まりごとを満たしている範囲を評価することができる。	
	聴衆をひきつける方法（例：伏線やどんでん返し）を描写したりコメントしたりできる。	
B2	二つの作品の類似点・対照的な点を見つけ，比較対照して説明し，主題・人物・場面について考察することによって比較することができる。	
	作品についてほかの人の意見や議論を参考にしつつ，主題や構成・形式の特徴を理解していることを示して裏付けのある意見を述べることができる。	
	作品の中の人物像の描き方について例を挙げて評価できる。同じテーマでも作品が違えば扱い方が違うことを説明できる。	

4.2.2.2 概念の仲介

4.3.2.2.1　仲間との協働を促進する

「仲間との協働を促進する」Can-do 書き換え例は表 7 の通りである。CEFR 2018 では特定の場面が設定されていなかったが，ビジネス日本語場面を設定して書き換えた。

表 7　「仲間との協働を促進する」の書き換え例

仲間との協働を促進する		
CEFR 2018		BJFW
C1	攻撃が起きることを回避し，または最小限度に抑え，意見の不一致や批判をかわし，貢献的なことはきちんと評価して，グループ内の異なる観点に対して敏感に対応することができる。	会議で，攻撃的な議論にならないように注意し，意見の不一致や批判をうまく扱ったり建設的意見はきちんと取り上げたり丁寧な対応をして，異なる意見をまとめることができる。
	やり取りを発展させてうまく結論にもっていくことができる。	会議でメンバーの議論を建設的に発展させ結論を導き出すことができる。
B2	人々の反応を見ながら質問やグループ内のやり取りの方法を調整することができる。	会議のメンバーの反応を見て，質問ややり取りの方法を調整できる。
	グループの話し合いで考えや決定したことを記録する，それについて他のグループと話し合う，のちに全体会議でグループを代表して要点を発表するなどしてグループの代表レポーターの役割を務めることができる。	会議で議事録を作成する，それをもとに出席者以外の人と話し合う，会議メンバーを代表して要点を発表するなどして会議の代表の役割を務めることができる。
	協働作業をどう進めるかという話し合いに役立つ質問をすることができる	協働でする業務の進行方法を相談する際に役に立つ質問をすることができる。
	チームワークの目標を明確にすることを助けたり，そこに到達するほかの方法と比較したりできる。	協働でする業務の目標を明確にすることに貢献したり，目標到達のためのほかの方法を検討したりできる。
	次に考えるべきことやどう進めるべきかを提案することによって話し合いを軌道修正することができる。	会議で次のステップや進行方針を提案して，軌道修正することができる。

4.2.2.3 コミュニケーションの仲介

4.2.2.3.1 複文化の場を円滑にする

長沼（2018）は，コミュニケーションの仲介について，異文化的要素を含むコミュニケーションのにおける仲介であり，複文化間での交流の促進や他者との人間関係に配慮したやりとりの促進に関する尺度が含まれると指摘している。表 8 の「複文化の場を円滑にする」Can-do は，仲介者が行うタスクではなく，仲介者としての心構えや態度を挙げて Can-do が構築されていた。

表 8 「複文化の場を円滑にする」の書き換え例

複文化の場を円滑にする		
	CEFR 2018	BJFW
C2	社会文化的かつ社会言語的な点を考慮しつつ，自分が属しているコミュニティや他のコミュニティのメンバー同士を効果的に自然に仲介できる。	日本人と外国人が業務上で交流する際に社会文化的な点と社会言語的な点を考慮しながら，効果的に自然な形で仲介することができる。
	ニュアンスと言外の意味を認識しつつ，微妙なディスカッションをリードできる。	日本人と外国人が会議をする時に発言のニュアンスと言外の意味を理解して，微妙なディスカッションをリードし，司会をすることができる。
C1	曖昧さを理解し，助言と支援をしながら，誤解を解くことによって文化コミュニケーションの共有に貢献し，異文化間の出会いにおいて仲介者として行動できる。	日本人と外国人が業務上で協働する際に曖昧さを理解し，助言をしたりサポートしたりして，異文化間の誤解を解くことによって仲介することができる。
	発話されたことや書かれたことに対して人々がどのように誤解するかを先読みし，それについてコメントしたり，関連する問題についての文化的側面の違いを解釈して，伝えたりすることによって肯定的な交流を維持する手助けをすることができる。	日本人と外国人が業務上で協働する際に異文化による誤解を先読みし，誤解を生まないように説明したり，解釈したりして伝えることによってコミュニケーションを促進することができる。
B2	関わっているすべての人にとって馴染みがない特定の状況でコンセンサスを得るために社会文化的慣習についての知識を活かすことができる。	日本人と外国人が会議をする際にコンセンサスを得るために社会文化的な側面を考慮して仲介することができる。
	異文化間の出会いの場でコンテクストに適応した表現をすることによって，自分自身が普通だと思っている世界観とは異なる側面を尊重することを示すことができる。	日本人と外国人が業務上で協働する際にそれぞれの文化のコンテクストを理解し，それぞれの世界観を尊重しながら仲介することができる。
	異文化間の出会いの場で誤解や間違った解釈を明らかにして討論の場をスッキリさせて討論を進めるために本当はどのような意味だったのかを示すことができる。	日本人と外国人が会議をする際に文化が異なることが原因で誤解があった時，解消するために有効な説明をし，討論をスムーズに進めることができる。
	異なる考え方や感覚・見解についての理解と尊重を示し，参加者がお互いの考え方を理解し，貢献できるように文化コミュニケーションの交流を促進することができる。	日本人と外国人が業務上で協働する際にそれぞれの異なる考え方や感覚を尊重し，お互いが理解できるようにサポートすることによってコミュニケーションを促進することができる。
	異なる文化的な方針を持つ人々と考え方と見方に関する類似点と相違点について討論しながら，協働することができる。	日本人と外国人が会議をする際に文化的背景から来る類似点や相違点について説明することによって討論をスムーズに進めることができる。
	異なる文化を持つ人々と協働する時に共有プロセスを創り出すために他人のやり方を受け入れることができる。	日本人と外国人が業務上で協働する際にそれぞれの異なるやり方を尊重することができる。

4.3 仲介ストラテジー

4.3.1 仲介ストラテジー Can-do の書き換えプロセス

仲介ストラテジーCan-do は,「新しい概念を説明する」と「テクストを簡略化する」である。難易度の低いタスクは除外し，ビジネス場面を想定して書き換えた。CEFR には明示されていない書き言葉と話し言葉の区別を Can-do に取り入れたため，項目数が増加した。各 Can-do の項目数は，表 9 の通りである。

表 9　仲介ストラテジーの Can-do 項目数

仲介ストラテジー（38 項目）			
新しい概念を説明する（23 項目）			
仲介スキル	CEFR	BJFW	除外
背景知識を結びつける	7	7	0
言語に適応する	10	9	1
複雑な情報を簡略化する	6	6	0
テクストを簡略化する（15 項目）			
仲介スキル	CEFR	BJFW	除外
わかりにくいテクストを説明する	8	23	0
テクストの流れを整理する	7	6	0

4.3.2 仲介ストラテジー Can-do の書き換え例

4.3.2.1 新しい概念を説明する

4.3.2.1.1 複雑な情報を簡略化する

仲介ストラテジーの「複雑な情報を簡略化する」Can-do の書き換え例は表 10 の通りである。一般論的な記述であった Can-do をビジネス場面に置き換えてより具体的に書き換えた。

表 10 「複雑な情報を簡略化する」の書き換え例

複雑な情報を簡略化する		
	CEFR 2018	BJFW
C2	複雑な問題について部分と全体との関連を説明することによって理解を促し、問題に対する様々なアプローチの方法を示すことができる。	業務に関連する複雑な問題について要素を全体と関連づけて説明することで理解しやすくすることができ，さまざまな説明の仕方を取ることができる。
C1	複雑な問題について主要なポイントを強調・分類し，論理的に関連づけた形で示し，さまざまな方法で主要な側面を繰り返してメッセージを強調することによってわかりやすくすることができる。	業務に関連する複雑な問題について主要なポイントを強調・分類し，論理的に関連づけた形で示し，さまざまな方法で主要な点を繰り返して要点を強調することでわかりやすくすることができる。
B2	複雑な問題について議論の要素を個別に提示することによって理解しやすくすることができる。	業務に関連する複雑な問題を議論の要素を個別に提示することによって理解しやすくすることができる。
B2	複雑なプロセスについて一連の小さなステップに分けることによって理解しやすくすることができる。	業務に関連する複雑なプロセスを一連の小さなステップに分けることによって理解しやすくすることができる。

4.3.2.2　テクストを簡略化する

4.3.2.2.1 わかりにくいテクストを説明する

仲介ストラテジーの「わかりにくいテクストを説明する」Can-do の書き換え例は表 11 の通りである。難易度の低いタスクは除外し，ビジネス場面を想定して書き換えた。CEFR には明示されていない書き言葉と話し言葉の区別を Can-do に取り入れたため，項目数が増加した。

表 11「複雑な情報を簡略化する」の書き換え例

複雑な情報を簡略化する					
		BJFW			
CEFR 2018		話し言葉→話し言葉	話し言葉→書き言葉	書き言葉→書き言葉	書き言葉→話し言葉
C2	複雑な学術的または専門的な話題に関するテクストに示される情報を詳しく説明したり例示したりすることによってわかりやすく伝えることができる。	複雑で専門的な話題に関する内容を聞いた後，詳しく説明したり例示したりすることによって情報をわかりやすく口頭で伝えることができる。	複雑で専門的な話題に関する内容を聞いた後，文章で，詳しく説明したり例示したりすることによって情報をわかりやすく伝えることができる。	専門的な雑誌や報告書の複雑で専門的な話題に関する内容を詳しく説明したり例示したりすることによって書き換えて情報をわかりやすく伝えることができる。	専門的な雑誌や報告書の複雑で専門的な話題に関する内容を口頭で詳しく説明したり例示したりすることによって情報をわかりやすく伝えることができる。
C1	難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによって複雑で難しい内容をよりわかりやすくすることができる。	業務上の複雑で難しい内容を聞いた後，難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによって口頭でわかりやすく伝えることができる。	業務上の複雑で難しい内容を聞いた後，文章で難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによってわかりやすく伝えることができる。	報告書など業務上の複雑で難しい内容について難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによってわかりやすく書き換えることができる。	報告書など業務上の複雑で難しい内容について口頭で難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによってわかりやすく説明することができる。
	複雑なテクストの要点を繰り返したり，説明したり，話し方を調整したりすることによって聴衆にとってよりわかりやすくすることができる。	業務上の複雑な内容を聞いた後，口頭で要点を繰り返したり，説明したり，話し方を調整したりすることによって，要点を聞き手にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の複雑な内容を聞いた後，文章で要点を繰り返したり，わかりやすく説明したりすることによって，要点をわかりやすく伝えることができる。	業務上の複雑な文書を繰り返したり，説明を加えたり，書き方を調整したりすることによって，要点をよりわかりやすく書き換えることができる。	業務上の複雑な文書を繰り返したり，説明を加えたり，話し方を調整したりすることによって，要点をよりわかりやすく伝えることができる。
B2	繰り返したり，説明したり，話し方を調整したりすることによって複雑なテクストに含まれる要点を聴衆にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の複雑な内容を聞いた後，口頭で要点を繰り返したり，説明したり，話し方を調整したりすることによって要点を聞き手にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の複雑な内容を聞いた後，文章で要点を繰り返したり，わかりやすく説明したりすることによって要点をわかりやすく伝えることができる。	業務上の文書の内容を，例，根拠，説明を書き加えることによって，読み手にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の文書の内容を，口頭で例，根拠，説明を加えることによって，聞き手にとってよりわかりやすいものとすることができる。
	関心のある分野のテーマのテクストの内容を，例，根拠，説明的なコメントを追加することによって，聴衆にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の内容を聞いた後，例，根拠，説明を追加することによって，聞き手にとってよりわかりやすく伝えることができる。	業務上の内容を聞いた後，文章で，例，根拠，説明を加えることによって，わかりやすく伝えることができる。	業務上の文書の内容を，例，根拠，説明を書き加えることによって，読み手にとってよりわかりやすいものとすることができる。	業務上の文書の内容を，口頭で例，根拠，説明を加えることによって，聞き手にとってよりわかりやすいものとすることができる。

5. 今後の課題

今後は，仲介 Can-do を含む BJFW の項目の必要度を測るため，既に日本国内で就職している高度外国人材と企業担当者にインタビュー調査とアンケート調査を実施し，さらに海外で働く高度外国人材と企業担当者にも調査を実施する。この調査では，主に高度外国人材にとって必要な項目とそうでない項目を判別することを目的とする。調査結果を分析し，BJFW の項目を整理し，確定する。その後，国内および海外で活躍する高度外国人材に対し，各項目についてどの程度できるかを尋ねる Can-do 自己評価調査を実施し，項目の難易度を推定するためにラッシュモデルによる分析を行う。その結果に基づき，Can-do 項目を精査する。さらに，Can-do 項目を難易度順に並べ，レベル設定（A1～C2）を行い，尺度化し，BJFW を完成する。

【引用文献】

1）葦原恭子・奥山貴之・塩谷由美子・島田めぐみ（2018）「高度外国人に求められる仲介スキルとは―タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に―」『琉球大学国際教育センター紀要』第 2 号，pp.1-17, 琉球大学国際教育センター
2）葦原恭子・塩谷由美子・奥山貴之（2019）「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状―メーカーにおける仲介人材に対する実態調査―」『琉球大学国際教育センター紀要』第 3 号，pp. 1-17, 琉球大学国際教育センター
3）奥村三菜子（2019）「今，話題の CEFR A2 って，何？《会場からの質問への回答》」2019 年度日本語学校教育研究大会日本語教育振興協会　https://www.nisshinkyo.org/news/pdf/20190821y.pdf　（2020 年 1 月 10 日閲覧）
4）長沼君主（2018）「CEFR から読み解くタスクベースの言語能力発達」後編，言語能力育成を考える　第 3 回，ARCLE, ベネッセ教育総合研究所，https://www.arcle.jp/note/2018/0028.html　（2020 年 1 月 10 日閲覧）
5）西山教行（2018）「CEFR の増補版計画について」『言語政策』第 14 号, 2018 年 3 月　日本言語政策学会
6）堀井惠子（2013）「留学生の就職とビジネス日本語教育の現状と課題」ウェブマガジン『留学交流』2013 年 10 月号 https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2013/__icsFiles/afieldfile/2015/11/19/201310horiikeiko.pdf#search=%27 留学生の就職とビジネス日本語教育の現状と課題%27　（2020 年 1 月 10 日閲覧）
7）真嶋潤子（2019）「外国語教育における到達度評価制度について : CEFR 初版 2001 から 2018 補遺版 CEFR-CV まで」『外国語教育のフロンティア 2』,pp1-13, 大阪大学
8）横須賀柳子（2007）「企業の求人と留学生の求職に関する意識比較」『留学生教育』12.　pp.47-57. 留学生教育学会
9）Council of Europe （2001）Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment https://rm.coe.int/16802fc1bf　（2020 年 1 月 10 日閲覧）
10）Council of Europe （2018）Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume with New Descriptors https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989（2020 年 1 月 10 日閲覧）

※本稿は，科学研究補助金 基盤研究（C）「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの確立–尺度化と妥当性検証」課題番号 19K0071（研究代表者・葦原恭子，研究分担者・奥山貴之，塩谷由美子，島田めぐみ，野口裕之）の研究成果の一部である。

（葦原―琉球大学，塩谷―東京富士大学，島田―日本大学）

【資料】CEFR 2018 補遺版における仲介 Can-do statements

本研究チームによる CEFR 2018 補遺版における mediation（仲介）Can-do statements の日本語訳は以下の通りである。

仲介活動	
テクストの仲介	
特定の情報を口頭で伝える	
C2	Can-do 記述なし, C1 参照
C1	言語 A で書かれた長く複雑なテクストの特定の部分に書かれた特定の情報に関連することを言語 B で説明できる。
B2	会議で特定の目的に関連して言語 A で書かれた本に関する記事について言語 A でされたプレゼンテーションを言語 B で置き換えることができる。
	一般的な話題や自分の興味のある分野に関連した話題について言語 A で書かれた正式な文書やレポートの主要なポイントを言語 B で置き換えることができる。
B1	はっきりとした標準的なアクセントと普通のスピードで話された言語 A による公共のアナウンスやお知らせの内容を言語 B で置き換えることができる。
	はっきりとした発音でされた言語 A による指示や命令の内容を言語 B で置き換えることができる。
	言語 A で書かれた直接情報を伝えるためのテクスト（リーフレット・パンフレット・お知らせ・手紙・E メールなど）によって与えられた特定の情報を言語 B で置き換えることができる。
A2	言語 A ではっきりと話された馴染みのある日常的な話題に関するアナウンスの主要な点について情報を単純化するために言葉を探しながら言語 B で置き換えることができる。
	言語 A で書かれた馴染みのある話題に関する短い簡単なテクスト・ラベル・お知らせに含まれる特定の関連情報を言語 B で置き換えることができる。
	言語 A でゆっくりはっきりした簡単な表現で話された短いはっきりした簡単なお知らせ・指示・アナウンスの主要な点を言語 B で置き換えることができる。
	言語Aでゆっくりはっきりした発音で話された短い簡単な連続した指示からなる簡単な方法を言語Bで置き換えることができる。
A1	言語 A で短い簡単な表現で話された場所に関する簡単で予想可能な情報を言語 B で置き換えることができる。
Pre-A1	言語Aでゆっくりはっきりと繰り返されていれば, 場所や時間に関する簡単な指示を言語Bで置き換えることができる。
	言語 A による短い簡単な視覚的情報入りの基本的な情報（例：番号や値段）を言語 B で置き換えることができる。
特定の情報を書いて伝える	
C2	Can-do 記述なし, B2 参照
C1	Can-do 記述なし, B2 参照
B2	言語 A で行われた会議のプレゼンテーションに関連した詳細な考慮を必要とする点を示しながら, 内容を言語 B で書いて伝えることができる。
	自分自身の専門分野・アカデミックな分野・個人的に興味がある分野であれば，言語 A で書かれた主張が複雑でも構成がきちんとしたテクストの関連したポイントを言語 B で書いて伝えることができる。
	言語 A で書かれたアカデミックまたは専門的な雑誌の記事に関連したポイントを言語 B で書いて伝えることができる。
	言語 A による会議での決定についての関連事項を言語 B でレポートに書いて伝えることができる。言語 A の正式な通信で重要なポイントを含んで情報を書いて伝えることができる。
B1	馴染みのある話題について言語Aで話されたテクストに含まれる特定の情報についてのポイントを言語Bで書いて伝えることができる。
	馴染みのある話題について言語Aで書かれた簡単な情報が含まれているテクストの特定の関連情報を言語Bで書いて伝えることができる。
	言語 A で書いて記録されていた簡単なメッセージに含まれる特定の情報を馴染みのある話題でゆっくりはっきり伝えられれば，言語 B で書いて伝えることができる。
A2	言語 A で書かれた短く簡単な情報テクストの特定の情報が具体的で馴染みのある話題で日常的な簡単な言葉で書かれていれば, 言語 B で書いて伝えることができる。
	言語 A で書かれた簡単ではっきりしたわかりやすいメッセージやアナウンスの主要なポイントがゆっくりはっきり発音されていれば，言語 B で書いてリストアップできる。
	言語 A で書かれた簡単なテクストが日常生活の話題で急に興味を持った必要となったことなら，特定の情報を言語 B でリストアップすることができる。
A1	言語 A で話された名前・数字・値段や急に興味を持った非常に簡単な情報を話し手が非常にゆっくりはっきり繰り返し話してくれれば，言語 B でリストアップすることができる。
Pre-A1	言語 A で書かれた名前・数字・値段や簡単な情報のテクストが急に興味を持ったことで、非常に簡単な言語とイラストによって表現されていれば、言語 B でリストアップできる。

仲介活動	
テクストの仲介	
データを口頭で説明する	
C2	言語 A で書かれた学術的・専門的なトピックの概念的に複雑な研究から得られた様々な形の実験データと視覚的に構築された情報を言語 B ではっきりと 確実に訳して口頭で説明することができる。
C1	言語 A で書かれたテクストで学術的・専門的なトピックの概念的に複雑な研究から得られた複雑な図式と視覚的に構築された情報の主要なポイントと詳細を言語 B ではっきりと確実に訳して口頭で説明することができる。
B2	言語Aで書かれた興味があるトピックの複雑な図や表やその他の視覚的に構築された情報の詳細な情報を言語Bではっきりと確実に訳して口頭で説明することができる。
B1	言語 A で書かれた興味があるトピックの図の詳細情報を語彙がわからず躊躇したり不正確だったりすることもあるが，言語 B で訳して口頭で説明することができる。
	言語 A で書かれた簡単な図で示された全体的な傾向を語彙が足りず時として話し続けることが難しいことがあるが，言語 B で訳して口頭で説明することができる。
A2	言語 A で書かれた馴染みのあるトピックに関する簡単な視聴覚素材（例：天気図、基本的なフローチャートなど）について言いよどんだり言い間違えたりすることがあからさまにあるが，言語 B で訳し口頭で説明することができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
データを書いて説明する	
C2	言語 A で書かれた学術的または専門的なトピックの概念的に複雑な研究から得られた様々な形の実験データを言語 B で訳して書いて説明することができる。
C1	言語 A で書かれたテクストで学術的・専門的なトピックの概念的に複雑な研究から得られた複雑な図式と視覚的に構築された情報の主要なポイントと詳細を言語 B で訳してはっきりと確実に書いて伝えることができる。
B2	言語Aで書かれた興味があるトピックの複雑な図や表やその他の視覚的に構築された詳細な情報を言語Bで訳して確実に書いて説明することができる。
B1	言語 A で書かれた重要なポイントをさらに詳細に示した簡単な図（例：グラフ、表）で示された全体的な傾向を辞書や他の関連資料を見ることができれば，言語 B で訳して書いて説明することができる。
	言語 A で書かれた馴染みのあるトピック（例：天気図、基本的なフローチャートなど）に示された主要な事実について言語 B で簡単な文章で書いて説明することができる。
A2	Can-do 記述なし
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
テクストを口頭で処理する	
C2	言語 A で関連事項や含蓄がはっきりと示されていなくても，言語 B で話し手/書き手の表現（例：含み、皮肉、風刺）から社会文化的な含蓄を指摘し，推論を口頭で説明することができる。
C1	言語 A で書かれた長く読むのが難しいテクストを言語 B で要約することができる。
	言語 A による議論を自分自身の学術的または専門的な能力で異なる見解を念入りに吟味し，最も重要なポイントを見出し，言語 B で要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした複雑なテクストの主要なポイントを自分自身の専門の分野ではないため，ときどき特定の専門的な概念を確認すれば，言語 B できちんと構築された話し方ではっきりと要約できる。
	言語 A によるプレゼンテーションに含まれる事実と反論の微妙な違いを言語 B で説明することができる。
	言語 A で話されたりまたは書かれたりした複雑なテクストの情報と議論を利用して，言語 B で評価的なコメントと自分の意見を添えてある話題について話すことができる。
	言語 A で専門的な話題について話されたり書かれたりしたテクストの考えや意見をテクストにある特定の一節を参照して筆者の出した結論を擁護しながら、言語 B で説明することができる。
B2	言語 A 実際に話された長い複雑なテクストについて自分の興味がある分野で最近興味があるトピックの重要なポイントを言語 B で要約することができる。
	言語 A による複雑な討論の主要なポイントを提示された異なる見解を評価しつつ言語 B で要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした複数の資料の情報と議論について言語 B で話を総合して報告することができる。
	言語 A による幅広い事実と想像によるテクストを主要テーマと対比される見解についての討論についてコメントをしながら，言語 B で要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした長い複雑なテクストの自分が特に興味を持っている分野の最近興味があるトピックの重要なポイントを言語 B で要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした自分の興味があるテクストがどのような聴衆向けなのかを認知し，その目的・著者の立ち位置や意見を言語 B で説明することができる。
	言語 A によるニュースの記事からの抜粋・インタビュー・意見・議論・議論の元を含むドキュメンタリーについて言語 B で要約することができる。
	言語 A による映画や芝居のあらすじやシーンについて言語 B で要約・コメントすることができる。

仲介活動	
テクストの仲介	
テクストを口頭で処理する	
B1	言語 A で話された自分の興味がある分野の話題の長いテクストの主要なポイントを標準語で特定の表現の意味を確認することができれば，言語 B で要約することができる。
	言語 A による短い物語・記事・談話・討論・インタビュー・ドキュメンタリーを言語 B で要約し，詳細についての質問に答えることができる。
	言語 A によるいくつかの原典からの短い情報をいくつか照合し、言語B で要約し、他の人に伝えることができる。
	言語 A で馴染みがあり自分の興味があるトピックについて話されたり書かれたりしたはっきりとよく構築されたテクストの主要なポイントをときどき語彙力が制限されているため表現することが難しいことがあるにしても言語Bで要約することができる。
	言語 A による馴染みのあるトピック（例：雑誌の短いインタビュー・旅行パンフレット）について書かれたわかりやすいテクストの主要な情報を言語 B で要約することができる。
	言語 A による個人的な最近興味あることについて交わされた会話の主要なポイントを話者がはっきりとした発音の標準語で話せば，言語 B で要約することができる。
	言語 A による自分の興味がある分野のトピックの口頭で伝えられた長いテクストの主要なポイントが標準的な言語で話され何度か聞き返すことができれば、言語 B で要約することができる。
	言語 A によるテレビ番組やビデオ映像上の主要なポイントを映像を何度か見返すことができれば、言語 B で要約することができる。
A2	言語 A による簡単なテレビやラジオのイベント・スポーツ・事故などのニュースの主要なポイントをトピックに馴染みがあり，ゆっくりはっきりと伝えられれば，言語 B で報告することができる。
	言語 A で書かれた構造がはっきりした短い簡単なテクストに含まれている情報がイラストや表で示されていれば，言語 B で簡単な文章で報告することができる。
	言語Aによる馴染みのあるトピックに関する簡単で短い情報を伝えるテクストの主要なポイントを言語Bで要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりしたはっきりした構造の短い簡単なテクストの主要なポイントを自分の限られたレパートリーを他の方法（例：ジェスチャー・絵・他の言語の言葉）で補うことができれば，言語 B で伝えることができる。
A1	言語 A で書かれた簡単で予想可能な情報が簡単なサインやお知らせ・ポスター・プログラムを言語 B で伝えることができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
テクストを書いて処理する	
C2	言語 A によるテクストで特定の相手の立場を示した上で筆者が控えめな表現や不明瞭な批判・皮肉・風刺をしていることに注目しながら，事実や議論が示された方法を言語 B で書いて説明することができる。
	首尾一貫したプレゼンテーションの包括的な結果を考慮しながら議論を再構築し，異なる情報源からの情報を要約することができる。
C1	言語 A で書かれた長い複雑なテクストを珍しい言葉や専門用語の正確な意味を時々確認することができれば，内容を適切に訳し言語 B で書いて要約することができる。
	言語 A による長い複雑なテクスト（例：学術的または政治的な分析記事・小説の一節・社説・書評・報告・科学書からの引用）を特定の読者のために原典の文体や言語使用域を尊重しながら，書いて要約することができる。
B2	言語 A で話されたり書かれたりした自分の専門的・学術的・個人的興味がある分野のよく構築された複雑なテクストの主要な内容を言語 B で書いて要約することができる。
	言語 A で書かれた自分が特に興味がある分野の学術的・専門的な出版物に含まれる情報や見解を比較し・対比・統合し，言語 B で書いて説明することができる。
	言語 A で書かれた複雑なテクストにはっきり示された見解をテクストにある特定の一節を参照し筆者の出した結論を擁護しながら，言語 B で書いて説明することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした自分が興味がある、または専攻の分野の複雑なテクストの主要な内容を言語 B で書いて要約することができる。
B1	言語Aによる一般的または個人的な興味があるトピックの情報と議論を含んだテクストを言語Bで書いて要約することができる。
	言語 A で話されたり書かれたりした個人的にまたは最近興味があるトピックに関する簡単な情報を伝える話されたテクストがはっきりとした発音の標準的な話し方であれば、主要なポイントを言語 B で書いて要約することができる。
	短い書かれた一節を元のテクストの言葉と語順を使いながら簡単な仕方で言い換えることができる。

仲介活動	
テクストの仲介	
テクストを書いて処理する	
A2	言語Ａによる短い簡単なテクストに含まれる関連情報をテクストが具体的で馴染みのあるトピックで日常的な表現で書かれていれば，言語Ｂで箇条書きにすることができる。
	学習者の能力と経験に制限があるにしても短いテクストの短い文章や一節のキーワードを挙げることができる。
	言語Ａの最も高い頻度で使われる語彙で書かれた馴染みのある日常的なテーマの非常に短いテクストを言語Ｂの簡単な言葉で間違いがあるにしても理解できるレベルのテクストに訳すことができる。
	印刷されたまたは見やすく書かれた手書きの短いテクストを書き写すことができる。
A1	辞書を使いながら言語Ａで書かれた簡単な文章を常に適切な意味を選んでいないにしても言語Ｂで訳すことができる。
	標準的な形でプリントされた短いテクストや単語を書き写すことができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
書かれたテクストを口頭で訳す	
注：異なる言語間で仲介がされるときはどのようなときでも使用者は対象言語を特定しながら能力記述文を完成することを希望している。	
C2	言語Ａで書かれた個人的・学術的・専門的に興味がある幅広いトピックの抽象的なテクストを評価的な側面や議論を加味し，ニュアンスや含蓄も含みながら，言語Ｂで流暢に口頭で訳すことができる。
C1	言語Ａで書かれた幅広い一般的･専門的なトピックの複雑なテクストを大抵のニュアンスを取り入れながら言語Ｂで流暢に口頭で訳すことができる。
B2	言語Ａで書かれた自分の専門的・学術的・個人的興味のあるトピックの情報と議論が含まれた複雑なテクストを言語Ｂで口頭で訳すことができる。
B1	言語Ａで書かれた自分の専門的・学術的・個人的興味のあるトピックの情報と議論が含まれたテクストが複雑でない標準的な言語で書かれていれば，言語Ｂで口頭で訳すことができる。
	言語Ａで書かれた馴染みがあるか自分が興味のあるトピックに関するはっきりとした良い構造の情報を伝達するテクストを自分の語彙的な制限によって時々難しいことがあるにしても，言語Ｂでほぼ正確に口頭で訳すことができる。
A2	言語Ａで書かれた短い簡単な日常的なテクスト（例：パンフレットの見出し・お知らせ・指示・手紙・Ｅメール）を言語Ｂでほぼ正確に口頭で訳すことができる。
	言語Ａで書かれた短い簡単なテクスト（例：馴染みのあるトピックのお知らせ）をほとんどの要点を掴みながら，言語Ｂで簡単かつざっくりと口頭で訳すことができる。
	言語Ａの簡単な文章で書かれた日常の馴染みのあるトピックの情報（例：個人的なニュース・短い物語・道案内・お知らせ・指示）を言語Ｂで簡単かつざっくりと口頭で訳すことができる。
A1	言語Ａで書かれたサインやお知らせ・ポスター・プログラム・パンフレットなどに見られる簡単な日常的な単語や一節を言語Ｂで簡単にざっくりと口頭で訳すことができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
書かれたテクストを書いて訳す	
C2	言語Ａで書かれた自分の専門外の専門的な素材をその分野の専門家に内容の正確さを確認してもらうことができれば，言語Ｂで書いて訳すことができる。
C1	言語Ａで書かれた社会的・学術的・自分の専門のトピックについての抽象的なテクストをいくつかの表現が原典の影響を受けすぎているにしても評価的な側面と議論を伝えながら，含蓄も含みつつ，言語Ｂで書いて訳すことができる。
B2	言語Ａを通常の言語表現を使いつつ，語順・言い換え・句読点・特定の表現が原典の影響を受けすぎているにしても言語Ｂにきちんと構築された形で書いて訳すことができる。
	言語Ａで書かれたテクストを原典のテクストの主要なポイントを正確に捉えつつ，翻訳がややぎこちなく読みにくいにしても元のテクストの文章と段落と同じような形で言語Ｂで書いて訳すことができる。
B1	言語Ａで書かれた複雑でない標準的な表現の簡単な事実を述べたテクストを言語的な間違いがあるにしても翻訳は理解できるという程度で，原典の構造に忠実に言語Ｂにほぼ正確に書いて訳すことができる。
	言語Ａで書かれた短い事実に関するテクストが不複雑ではない標準的な言語であれば，間違いがあるにしても翻訳の意味が通る程度に言語Ｂにほぼ正確に書いて訳すことができる。
A2	言語Ａで書かれた馴染みがある日常的なテーマについての非常に短い使用頻度の高い語彙のテクストを間違いがあるにしても翻訳の意味が通る程度に言語Ｂにほぼ正確に書いて訳すことができる。
A1	辞書を使うことができれば常に適当な意味を選ぶことができないにしても言語Ａの簡単な単語や一節を言語Ｂに書いて訳すことができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介活動	
テクストの仲介	
メモをとる	
C2	打ち合わせやセミナーに参加している間にトピックが複雑で馴染みがないことでも欠席者のために正確なメモ（または議事録）を作成することができる。
	発話されたことの含みやほのめかしに気づき，話し手が実際に話した通りの言葉でメモをすることができる。
	抽象的な概念や異なる考え方同士の関係性を掴むために効果的に言い換えたり，省略したりしながら，取捨選択してメモを作ることができる。
C1	自分自身が興味のある分野のトピックで情報を非常に正確かつ元の情報に忠実に記録して他の人のためにも使うことが可能な詳しいメモを作ることができる。
	講義やセミナーの途中でそれが馴染みがないトピックでも何をメモして何をメモしないかを決めることができる。
	複数の話された情報源（例：講義，ポッドキャスト・正式な討論・ディベート・インタビューなど）が通常の速さで聞き手に馴染みのある訛りで話される標準的な発話であれば，関連した詳細な情報や議論を選び出すことができる。
B2	馴染みのあるトピックの構造がはっきりした講義を理解し，単語に集中しすぎるあまり情報を聞きもらす傾向があるにしても自分自身が重要だと思った点をメモすることができる。
	自分自身が興味がある分野で提示されがちなほとんどのことについての打ち合わせやセミナーの正確なメモを作ることができる。
B1	トピックが自分自身の興味のある分野で発話がはっきりとしていてよく構築されていれば，講義中に自分自身があとで使用するのに十分に正確なメモをつくることができる。
	トピックに馴染みがあり，発話が簡単な言語ではっきりとした発音の標準的な話し方であれば，簡単な講義の大切なポイントをメモすることができる。
	馴染みのあるトピックに関する打ち合わせで簡単な言語でメモを取る時間が十分にあれば，日常的な指示をメモすることができる。
A2	馴染みのある予想可能なトピックで発話者に確認の質問とメモの許可を得られれば，プレゼンテーションやデモンストレーションの簡単なメモを作ることができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
創造的なテクスト（文学含む）に個人的に反応する	
C2	異なる時代とジャンル（小説・詩・戯曲）の作品について文体の微妙な区別とはっきり示された意味と同じように内在した意味も鑑賞することができる。
C1	作品中のある特徴に対する反応を概説し,その意義を示すことによって個人的な作品に対する解釈を説明することができる。
	作品中のある登場人物に対する解釈（心理的または感情的な状態・行動の動機・行動の結果）を概説することができる。
	物語・小説・映画・戯曲のあらすじの展開・登場人物・テーマに対する個人的な解釈を示すことができる。
B2	自分の考えを発展させ，例と議論を援用することによって作品に対する反応をはっきりとしたプレゼンテーションで示すことができる。
	作品に対する感情的な反応を示し，その反応が起こった経緯を詳しく述べることができる。
	何についてどのような理由で高く評価しているのかを説明することによって作品の表現方法・文体・内容に対する反応の詳細を示すことができる。
B1	作品の一部や側面に特に興味を持つ理由を説明することができる。
	どの登場人物に最も共鳴するか，なぜするかという詳細を説明することができる。
	物語・映画・戯曲の中の出来事を似たような自分の経験や伝聞と結びつけることができる。
	作品中の登場人物が経験する感情と自分が経験した感情を結びつけることができる。
	物語のある部分で経験した感情を説明することができる。（例：物語の中で登場人物のことが気にかかったところ，なぜ気にかかったのか）
	作品によって引き出された感情や意見について簡単に説明することができる。
	登場人物の性格を説明することができる。
A2	簡単なことばで作品に関する感情や考えを伝えることで作品に対する反応を示すことができる。
	登場人物の感情と登場人物がその感情を持った理由を説明することができる。
	作品が気に入ったかいらないか，それはどうしてか簡単なことばで言うことができる。
	文学作品の中で特に気に入った短い一節を引用しながら選ぶことができる。
	文学作品の中で特に気に入った短い一節を引用しながら選ぶことができる。
A1	作品の感想を簡単なことばやフレーズで言うことができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介活動	
テクストの仲介	
創造的なテクスト（文学含む）を分析・批評する	
C2	小説・詩・演劇など様々な時代・ジャンルの作品についてはっきりわかる意味の違いはもとより微妙な意味とスタイルの違いも含めて批評的評価をすることができる。
	意味や暗示を解いて解説してみせて，比喩・特殊な文法・曖昧表現など言葉のニュアンス・修辞的効果・文体の微妙な違いを認識することができる。
	作品中の特定の目的のために使われた構造・言語・修辞を評価し，適切さや効果について裏付けのある議論をすることができる。
	作品中で言葉の使い方に関する決まりごとを意図的に破っていることを批評して評価することができる。
C1	異なる時代・ジャンルの文学作品を含め幅広い様々なテクストを批評的に評価することができる。作品がそのジャンルでの決まりごとを満たしている範囲を評価することができる。
	聴衆をひきつける方法（例：伏線やどんでん返し）を描写したりコメントしたりできる。
B2	二つの作品の類似点・対照的な点を見つけ，比較対照して説明し，主題・人物・場面について考察することによって比較することができる。
	作品についてほかの人の意見や議論を参考にしつつ，主題や構成・形式の特徴を理解していることを示して裏付けのある意見を述べることができる。
	作品の中の人物像の描き方について例を挙げて評価できる。同じテーマでも作品が違えば扱い方が違うことを説明できる。
B1	日常語で書かれたわかりやすい筋立ての物語について要となるエピソードや出来事を指摘し，なぜそれが重要なのか出来事と出来事の関係を説明することができる。
	よく使う日常語で書かれていてなじみのある場面を描いた短い物語について主要なテーマや登場人物を描写することができる。
A2	よく使う日常語で書かれていてなじみのある場面を描いた短い簡単な物語についてテーマや特徴をありきたりな表現で簡単に描写することができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
概念の仲介	
仲間との協働を促進する	
C2	Can-do 記述なし
C1	攻撃が起きることを回避し，または最小限度に抑え，意見の不一致や批判をかわし，貢献的なことはきちんと評価して，グループ内の異なる観点に対して敏感に対応することができる。
	やり取りを発展させてうまく結論にもっていくことができる。
B2	人々の反応を見ながら質問やグループ内のやり取りの方法を調整することができる。
	グループの話し合いで考えや決定したことを記録する，それをほかのグループと話し合う，後で全体会議でグループを代表して要点を発表するなどしてグループの代表レポーターの役割を務めることができる。
	協働作業をどう進めるかという話し合いに役立つ質問をすることができる。
	チームワークの目標を明確にするために貢献したり目標達成するための他の方法と比較したりできる。
	次に考えるべきことを提案する，どう進めるべきかを提案するなどして話し合いを軌道修正することができる。
B1	提案をする，提案に答える，みんなが同意するか聞く，ほかの方法を提案するなどして，共有のタスクのために協力することができる。
	率直に質問したり答えたりして，グループで共有する目標にむかって簡単な作業を協力して進めることができる。
	話し合いの時に基本的な言葉でタスクを説明して，他の人に得意なことや経験のあることで貢献するよう頼むことができる。
	グループの他の人が話すよう促すことができる。
A2	他の人がゆっくり話してくれたり，助けてもらえたり，表現を助けてもらえたりすれば，単純な協働作業ができる。
	時々もう一度言ってもらった別の言い方で言ってもらったりすれば，ほかの人が何を考えているか聞く，提案する，反応を理解するなどして，簡単で実用的なタスクのために協働できる。
A1	短く簡単な表現を使って，非常に単純なタスクに貢献するよう，ほかの人を促すことができる。理解したことを伝え，ほかの人が理解したかどうか尋ねることができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介活動	
概念の仲介	
意味構築のために協働する	
C2	問題解決または前進に向けて議論を促すために要点を整理し評価し様々な貢献を関連付けることができる。
C1	他の人が何を言っていたかを伝え，要点を整理し，多様な視点を拾い上げて評価し，パートナーまたはグループがとる道筋を決めるディスカッションを構築することができる。
	前に進むための決定をするための協働的なディスカッションにおいて問題・挑戦・提案を評価することができる。
	コンセンサスを得るためのプロセスにおいて考え方の矛盾を指摘し，他の人の考え方に挑戦することができる。
B2	複雑なタスクの中で解決すべき主たる課題や考慮に入れなければならない重要なポイントを指摘することができる。
	考えを表明する，協働して考えを発展させる，今後の活動について提案する，詳細を説明するなどして，協働して意思決定や問題解決をすることに貢献することができる。
	他の人が言ったことを伝える，要点を整理する，異なる視点を拾い上げ評価するなどして，グループのディスカッションがうまく進むよう貢献することができる。
	他の人の考えや意見をさらに発展させることができる。
	グループで自分の考えを表明したり，他のメンバーの視点による反応を引き出す質問をしたりすることができる。
	賛成と反対の議論を提示したり，解決方法や折衷案を提案することによってある問題についての異なる 2 つの側面について考察することができる。
B1	目的を示し，取り組むべき主たるタスクを簡単な方法で説明することによって単純なチームワーク作業を進めることができる。
	質問したりコメントしたりすることによってディスカッションのフォーカスがずれないように簡単な修正をすることができる。
	グループのメンバーにそれぞれの視点の理由を述べるように言うことができる。
	お互いの理解を確認するために誰かがすでに述べたことまで遡って繰り返して，話の道筋がそれないように保つことができる。
A2	適切な質問を投げかけることによって話し手が確実に意図を伝えられるようにすることができる。
	話がフォローできていることを示すために簡単に意見を述べたり時々質問したりすることができる。
	ディスカッションを進ませるために簡単な方法で提案することができる。
A1	他の人がどう思うかを尋ねたり非常に簡単なことばで意見を言ったりすることができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
グループワークを主導する（インターアクションを処理する）	
C2	参加者または活動のために必要性に応じて異なる役割（(情報提供者・仲介者・リーダーなど）を果たしたり、適切な個人的サポートをしたりすることができる。
	インターアクションの底流を理解し、話の方向性をつけるために状況に応じて適切な段階を踏むことができる。
C1	全体・グループ・個々の作業が確実に段階的にスムーズに移行し、様々なバランスの取れた流れになるよう組織立てることができる。
	誰か一人が独断的になるのを防いだり、破壊的な行動を阻止したりして話を軌道修正をするために上手に介入することができる。
B2	協働作業を効果的に組織立てて進めることができる。
	グループをタスクに集中できるように、また皆が参加できるように介入することによって個々のメンバーやグループワークの邪魔にならないように観察することができる。
	的確な質問をしたり提案を求めたりしてタスクのある一面に人々の注意を向けさせるために効果的に介入することができる。
	グループワークに明確な指示を出し、それぞれ異なる協働作業の役割を説明することができる。
	問題解決や他の提案の評価に取り組む小グループの協働的なディスカッションの場で基本的なルールを説明することができる。
	新しい指示を出してタスクに集中させたり皆が参加するよう促したり必要に応じて介入をすることができる。
B1	ディスカッションで参加者に発言を促し、発言権を割り振ることができる。
	活動の段取りをするために簡単明瞭な指示をすることができる。
A2	組織で協働するグループに必要に応じて非常に簡単な指示をすることができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介活動	
概念の仲介	
グループワークを主導する（概念的な発話を促す）	
C2	複雑で抽象的なトピックのディスカッションにおいて的確な質問をしたり，他の人に根拠を詳しく述べるように促したりすることによって効果的に考えを発展させるようにリードすることができる。
C1	論理的根拠（例：仮説・推論・分析・正当化・予測）の提示を促すために異なる貢献をするような未解決の問題を投げかけることができる。
B2	グループのメンバーが考えを説明したり発展させたりすることを促すことができる。
	グループのメンバーが概念や解決策を思いつくためにお互いに情報やアイデアを構築することを促すことができる。
	人々が考えを発展させたり意見を正当化したり明確にしたりできるように質問やフィードバックをすることができる。
	人々の考えをもとにして考えを関連付けることができる。
	ディスカッションの主題にどう関連付けられるのかを説明するように言うことができる。
B1	すでに説明されたことについて特定の点を明確にするために質問することができる。
	説明された概念を理解しているかどうか確かめるために適切な質問をすることができる。
	他の人が根拠をはっきり示すように質問をすることができる。
	他の人になぜそう考えるのか，どうなると思うのかを質問することができる。
A2	あるアイデアについてどう思うのか質問することができる。
A1	簡単な単語や非言語表現を使ってあるアイデアについて興味を示すことができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
コミュニケーションの仲介	
複文化の場を円滑にする	
C2	社会文化的かつ社会言語的な点を考慮しつつ，自分が属しているコミュニティまたは他のコミュニティのメンバー同士を効果的に自然に仲介できる。
	ニュアンスと言外の意味を認識しつつ，微妙なディスカッションをリードできる。
C1	曖昧さを理解し，助言と支援をしながら，誤解を解くことによって，文化コミュニケーションの共有に貢献し，異文化間の出会いにおいて仲介者として行動できる。
	発話されたことや書かれたことに対して人々がどのように誤解するかを先読みし，それについてコメントしたり，関連する問題についての文化的側面の違いを解釈して，伝えたりすることによって肯定的な交流を維持する手助けをすることができる。
B2	関わっているすべての人にとって馴染みがない特定の状況でコンセンサスを得るために社会文化的慣習についての知識を活かすことができる。
	異文化間の出会いの場でコンテクストに適応したやり方で表現することによって自分が普通だと思っている世界観とは異なる側面を尊重することを示すことができる。
	異文化間の出会いの場で誤解と間違った解釈を明らかにして，討論の場をスッキリさせて討論を進めるために，本当はどのような意味だったのかを示すことができる。
	異なる考え方や感覚・見解についての理解と尊重を示し，参加者がお互いの考え方を理解し，貢献できるように文化コミュニケーションの交流を促進することができる。
	異なる文化的な方針を持つ人々と考え方と見方に関する類似点と相違点について討論しながら，協働することができる。
	異なる文化を持つ人々と協働する時に，共有プロセスを創り出すために他人のやり方を受け入れることができる。
B1	異なる文化間のコミュニケーションを支援することができる簡単な質問をしたり，同意や理解を示すことによって興味があるということや共感を示しつつ，異なる文化間のコミュニケーションを支援することができる。
	異文化の出会いの場でグループの他のメンバーの異なる世界観や感覚を認識し，協力的に行動することができる。
	異なる文化背景を持つ人々を紹介するために限られたレパートリーを使いながら，対象となる文化においてはその質問が異なる受け止められ方をする可能性があることを意識しながら，質問をしたり答えたりするために異文化交流を支援することができる。
	言語や文化に対する価値観や態度についての簡単な情報を交換しながら，文化コミュニケーションの共有の発展を手助けすることができる。
A2	同意する・誘う・感謝するなど，レパートリーが限られてはいるが，人々に簡単な言葉で物事を説明するように頼み，発話されたことを確かめながら，異文化交流に貢献することができる。
A1	歓迎と興味を簡単な言葉や非言語行動によって示しながら，他の人に話すように促したり，直接的に対象にされているかどうか示したりして異文化交流を促進することができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし

	仲介活動
	コミュニケーションの仲介
	打ち解けた場面（友人や同僚と）で仲介者として行動する
C2	適切な文体・話し方を維持し，詳細な意味を伝え，社会文化的な隠された意味を詳しく説明しながら，幅広い一般的および専門的な話題について言語Aで話されていることの意味を明確で流暢にかつ文法的に正しく言語Bで伝えることができる。
C1	重要な情報を明確かつ簡潔に伝え，文化的参照を説明しながら，個人的・学問的・専門的な分野の関心のある幅広いテーマについて言語Ａで話されていることの意味を言語Ｂで流暢に伝えることができる。
B2	詳細な情報を伝達したり，背景情報と社会文化的手がかり両方に注意を向けたり，必要に応じて明確化やフォローアップの質問や発言を行いながら，言語Ａと言語Ｂの間の仲介をすることができる。
	歓迎の辞で言われていることの意味，言語Ａによる自分の専門に関連した挨拶のスピーチ・小話・プレゼンテーションを言語Ｂで伝えることができる。話し手がしばしば話を止めてくれれば，文化的なキューを適切に訳したり，必要に応じて追加の説明を伝えることができる。
	話者が必要に応じて説明してくれれば，興味のある分野の話題について言語Ａで話されていることの意味を言語Ｂで伝えることができる。必要に応じて重要な発言や視点の重要性も伝えられる。
B1	事前に準備ができ，話し手が日常的な話し方ではっきりと話してくれれば，自分の興味がある分野の話題について言語Ａで話されている中心的な意味を言語Ｂで伝えることができる。その際，わかりやすい事実に関する情報と明示的な文化的な内容を伝えることができる。
	丁寧な話し方をしている間は話し手がはっきりと標準的な言葉で話してくれて，明確に言ってほしいと頼んだり，どう発言するか考えるために中断したりすることができれば，興味がある話題について言語Ａで話されている主要な意味を言語Ｂで伝えることができる。
A2	話者が標準的な言葉ではっきりと話してくれて，繰り返しや説明を求めることができれば，日常的な状況で言語Ａで言われたことの大筋を言語Ｂで基本的な文化的慣習に従い重要な情報を伝えながら，伝えることができる。
	予測可能で日常的な状況における個人的な願望とニーズに関して情報がやりとりされて，話を続けることを助けてもらえれば言語Ａで述べられたことの要点を言語Ｂで伝えることができる。
A1	他の人に話を続けることを助けてもらえれば言語Ａで得られた他の人の個人的な詳細と非常に単純で予測可能な情報を言語Ｂで伝えることができる。
Pre-A1	Can-do 記述なし
	微妙な場面や意見の相違のあるコミュニケーションを円滑にする
C2	状況と文化的な認識について巧みに発言を組み立てながら，破壊的な参加者にうまく対処することができる。
	ある主義に関する問題について他の人の見解を尊重する姿勢を見せながらも自信をもってしっかりとした，うまく駆け引きするというスタンスを守ることができる。
C1	合意に向けての双方の要求をよく理解しているということを示すために，繰り返したり言い換えたりして，異なる立場に対して気配りを示すことができる。
	意見が一致しない時に，双方の立場の核心にあるものと状況によっては諦めることができるものをはっきりさせるために双方に駆け引きのための依頼をすることができる。
	意見が一致しない時に，双方が新しい立場に移行することを提案するために説得力のある言葉を使うことができる。
B2	意見が一致しない時に，双方が同意に至るのを手助けするために決まり悪さや攻撃が最小限になるよう自由に応えられるような中立的な質問をしながら，可能な解決策へと導くことができる。
	意見が一致しない時に，双方の立場をより明確に，言い直したり，再構成したり，ニーズとゴールを優先させることによって，お互いを理解することを手助けすることができる。
	合意に達した点と双方が期待する点について明確で正しい要約を示すことができる。
	質問することによって，共通の見方を特定し，可能な解決策を強調するよう双方に勧めることができる。
	合意に達していない主要な点をある程度正確に要約し，関係者の立場を説明することができる。
	合意に達している点と合意の障害になっている点を強調して，双方の意見を要約することができる。
B1	トピックが馴染みのあるもので，相手がはっきり話してくれれば，意見が一致しない相手に彼らの見解を説明してほしいと頼み，彼らの説明に簡単に答えることができる。
	馴染みのあるトピックについて合意に達しない時に，簡単に確認や説明を求めることによってその重要な点を理解していることを示すことができる。
A2	話し手同士が合意に達していなかったり，インターアクションが困難なことを認識して，妥協や合意への道を探るために覚えている簡単な表現を使うことができる。
A1	話し手同士が合意に達していなかったり，問題があることを認識して，共感を示すために覚えている簡単な単語や表現を使うことができる（例：わかりました，大丈夫ですか）
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介ストラテジー	
新しい概念を説明する	
背景知識を結びつける	
C2	想定される背景知識を使って広範囲にわたる定義と説明をすることによって複雑な概念（例:科学的概念）を紹介することができる。
C1	人々が抽象的な問題に関してすでに持っている知識について考え，これから説明されることに関連づけられるように一連の質問を自然に提示することができる。
B2	セッションの目標と参加者の個人的・職業上の興味や経験の関連を明確に説明できる。
	人々がすでに持っている知識や経験と関連づけられるように，質問をしたり，意見を言ったりすることができる。
	人々がすでに慣れ親しんだものと比較対照することによって新しい概念や手順を説明することができる。
B1	人々の日常的な経験に基づいた例を示すことによってあることがどう機能するかを説明することができる。
	簡単な質問をすることによって新しい情報が人々に馴染みのあるものとどう関連するか示すことができる。
A2	Can-do 記述なし
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
言語に適応する	
C2	聴衆に合わせた言葉遣い・適切な洗練さと詳しさを持って主要な内容を伝えるために非常に幅広く言葉を選んで使うことができる。
C1	自分の専門分野の問題について専門家以外の人とコミュニケーションをとる際に専門用語や難しい概念を説明できる。
	複雑で専門的な話題に慣れていない聞き手や読み手にわかるように言葉（例：構文・慣用表現・専門用語）を適切に選ぶことができる。
	複雑な技術的なテクストを専門知識を持たない聞き手のために専門的ではない言葉をうまく使って，言い換えたり解釈したりすることができる。
B2	自分の分野の専門的なトピックについて専門知識を持っていない聞き手のために専門的ではない言葉をうまく使って説明することができる。
	自分の分野に関する特定の複雑な情報をよりシンプルな言葉で言い換えることによって，他の人にとってより明確でわかりやすいものにすることができる。
	興味のあるトピックについて話されたり書かれたりしたテクスト（エッセー，ディスカッション・フォーラム，プレゼンテーションなど）の要点を，よりシンプルな言葉で言い換えることによって，他の人にとってわかりやすくすることができる。
B1	馴染みのあるテーマについて，短くわかりやすく話されたり書かれたテクスト（例：短い雑誌記事・インタビュー）の要点を，他の人にとってわかりやすい内容になるように，よりシンプルに言い換えたり書き換えたりすることができる。
	書かれた短い文章を元のテクストの順序で短く言い換えることができる。
A2	日常的な話題に関する短いメッセージの要点を他の人が理解できるように違う表現を使って繰り返すことができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
複雑な情報を簡略化する	
C2	複雑な問題について部分と全体との関連を説明することによって理解を促し，問題に対する様々なアプローチの方法を示すことができる。
C1	複雑な問題について主要なポイントを強調・分類し，論理的に関連づけた形で示し，さまざまな方法で主要な側面を繰り返してメッセージを強調することによってわかりやすくすることができる。
B2	複雑な問題について議論の要素を個別に提示することによって理解しやすくすることができる。
	複雑なプロセスについて一連の小さなステップに分けることによって，理解しやすくすることができる。
B1	短い説明や情報を伝えるテクストをポイントを分けてリストとして提示することによって理解しやすくすることができる。
	一連の指示を理解しやすいように一度に数語ずつゆっくり言って，言語的・非言語的に強調することによって理解しやすくすることができる。
A2	Can-do 記述なし
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし

仲介ストラテジー	
テクストを簡略化する	
わかりにくいテスクストを説明する	
C2	複雑な学術的・専門的なトピックに関するテクストで示される情報を，詳しく説明したり例示したりすることによってわかりやすく伝えることができる。
C1	複雑で難しい内容の難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによってよりわかりやすくすることができる。
	複雑で難しい内容の難しい部分をより明確に説明し，役に立つ詳細情報を追加することによってよりわかりやすくすることができる。
B2	自分が関心のある分野のテーマのテクストの内容を，例，根拠，説明的なコメントを追加することによって，聴衆にとってよりわかりやすいものにすることができる。
	自分が関心のある分野のテーマに関する概念を具体的な例を挙げ，段階的に要約し，要点を繰り返すことによってよりわかりやすくすることができる。
	新しい情報を繰り返したり，イラストを追加したりすることによってわかりやすくすることができる。
B1	主要な情報を別の方法で伝えることによって日常的なトピックのある一面をより明確にわかりやすくすることができる。
	簡単な例を示すことによって日常的なトピックのある一面を明確にすることができる。
A2	Can-do 記述なし
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし
テクストの流れを整理する	
C2	複雑な元のテクストについてテクストの目的に不要な部分を削除しながら，書き直して，一貫性，まとまり，および議論の流れを改善することができる。
C1	複雑な元のテクストについて聴衆に最も関連するポイントに焦点を合わせるために，再構成することができる。
B2	元のテクストについて関連のない情報や繰り返しの情報を削除し，聴衆のことを考慮することによって平易にすることができる。
	元のテクストについて重要な内容をよりわかりやすくするために，聴衆に関連する新しい情報が含まれない部分を削除して編集することができる。
	重要なメッセージをより明確にするために，テクストの異なる箇所にある関連情報や繰り返される情報を特定・統合することができる。
B1	簡単な情報テクストについて情報を他の人に伝えるために重要な情報を特定してマーク（例：下線，ハイライトなど）を付けることができる。
A2	短い日常的なテクストの中の重要な文を特定し，マーク（例：下線、ハイライトなど）することができる。
A1	Can-do 記述なし
Pre-A1	Can-do 記述なし

What kinds of Mediation Skills are needed to be a High-skilled Foreign Personnel? Through Analysis of CEFR Companion Volume with New descriptors

ASHIHARA Kyoko,　SHIOTANI Yumiko,　SHIMADA Megumi

Abstract

In late years the demand for the high-skilled foreign personnel in the company increases in Japan. The labor force has been decreasing in Japan and the globalization of the business environment in the background. As for the high-skilled foreign personnel who graduated, or completed a Japanese university or graduate school, they could be a big force in Japan because of low birthrate and aging goes ahead through.

This study is aiming at developing the “Business Japanese Framework”, which could be a versatile assessment standard for education, evaluation, and human resources development of high-skilled foreign personnel. The Business Japanese Framework is supposed to be developed through both two processes as qualitative research methods, and quantitative survey methods. We conducted the surveys through face-to-face interviews with high-skilled foreign personnel in order to clarify how they were playing active roles as mediators. According to our survey, it is proved that the high-skilled personnel are playing active roles as cross-cultural communicators to mediate between Japanese companies and foreign business partners.

Just at that time, CEFR Companion Volume with New descriptors was published in 2018, which we have been referencing as a precedent study. In the companion volume, a new definition and can-do statements of mediation skills or mediation strategies were added. It indicated the importance of mediation activities in pluricultural and plurilingual society. The purpose of this study is to clarify the meditation skills required for high-skilled foreign personnel and add the can-do statements for mediation skills to the Business Japanese Framework.

【Keywords】Business Japanese Framework,　intercultural communication competence,
Business Japanese competence,　Can-do statements

(ASHIHARA: University of the Ryukyus, SHIOTANI: Tokyo Fuji University, SHIMADA: Nihon University)

執　筆　者　紹　介

葦原　恭子（琉球大学国際教育センター　教授）
日本語教育・異文化コミュニケーション

新城　直樹（琉球大学国際教育センター　講師）
日本語教・教育工学・日本語レトリック

塩谷由美子（東京富士大学経営学部　教授）
日本語教育

島田めぐみ（日本大学大学院総合社会情報研究科　教授）
日本語教育・言語テスト

琉球大学国際教育センター紀要　規定

1. 投稿資格：琉球大学グローバル支援機構国際教育センター所属教員（非常勤講師含む）および当センターにおいて適当と認められた者とする。共著の場合，前述の教員が１名含まれていなければならない。ただし「内容区分 f. 報告」はこの限りではない。
2. 内　　容：未発表のもので日本語教育・外国語教育およびその関連領域とする。
3. 内容区分：a. 研究論文，b. 調査報告，c. 実践報告，d. 研究ノート，e. 書評, f. 報告（a〜e にあてはまらないもの）, のいずれかとする。
4. 特別寄稿：招聘事業の講演者等に依頼し，原稿を掲載する。
5. 使用言語：本文は日本語または英語とする。
6. 書　　式：横書きワープロ（ワード）入力で，A4 判に 39 字×35 行とし，原則として 16 枚程度（研究ノート, 書評も同様）とする。図表・参考資料・参考文献・註等もこの分量の範囲に含める。（本文・参考文献・註の文字・行の縮小は不可）文献の書き方等は学会誌『日本語教育』の規定に準ずる。詳細は別途委員会で定めたものに従う。
7. 要　　旨：研究論文には和文（400 字以内）と英文（200 語以内）の要旨をつける。調査報告，実践報告には和文（400 字以内）の要旨をつける。またそれぞれ，5 語以内でキーワードを付す。研究ノートについてはこの限りではない。
8. 編集委員：紀要の発行にあたっては国際教育センター教員によって，紀要編集委員会を置く。委員会のメンバーは３名とし，原則として１年ごとに１名ないし２名交代する。
9. 採　　否： 紀要編集委員会で採否を決定する。
10. 発 行 日： 紀要の発行は年１回とする。
11. 著 作 権： 著者の申し出が特にない場合，投稿された著作物は琉球大学学術リポジトリへ登録するものとする。ただし，この場合，著作物の著作権は原著作権者（著者）に帰属するものとする。

〔2020 年 4 月 1 日改定〕

琉球大学国際教育センター紀要　第 4 号
（琉球大学留学生センター紀要　通算 17 号）

発行　2020 年 3 月

発行：琉球大学グローバル教育支援機構
国際教育センター
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
電話（098）895-8139

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun
Okinawa JAPAN 903-0213